

平成30年度後期 授業改善アンケート 質問項目

【選択肢】

A そのとおりだと思う	B どちらかといえば、そう思う	C どちらかといえば、そう思わない	D そう思わない
-------------	-----------------	-------------------	----------

【設問】

		no.	設 問
学 生		1	シラバスで授業内容を確認しましたか
		2	教室では授業に積極的に取り組みましたか
		3	授業外で学習(レポートや課題を含む)をしましたか
		4	あなたはシラバスに示された「到達目標」を達成しましたか
授 業	内 容	5	授業はシラバスに記載された内容で行われましたか
		6	あなたは授業内容を理解できましたか
	教 え 方 等	7	教員の説明は明快でしたか
		8	教員の話は良く聞き取れましたか
		9	授業の進め方は、内容等を理解する上で効果的でしたか
大 学 からの 質問	環境・設備等	10	学習環境(人数、部屋の広さ等)は良好でしたか
		11	参考書等が図書館に揃っていますか

1.概評

今回の授業改善報告書は、一般教養科目165コマ(前年度後期142コマ)を対象に、8077名(同7899名)が回答した結果を総括する。いずれの設問においても、肯定的評価(A+B)の割合が90%を超えており、前年度後期の結果との比較においては肯定的評価が「微減」となった項目が多いものの、全体として良好な状況が継続しているものと評価できる。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ ≤100	考察
1	0.0 (0)	0.0 (0)	3.5 (4)	8.8 (10)	20.4 (23)	40.7 (46)	20.4 (23)	3.5 (4)	2.7 (3)	0.0 (0)	[学生] 前年と比較するとNo.1「シラバスの確認」(92.2%→91.1%)とNo.2「教室での積極的取組み」(94.7%→94.3%)、No.3授業外学習(92.2%→90.8%)とNo.4シラバス提示の目標達成(93.7%→92.9%)の肯定的評価が微減している。シラバスを確認したとする割合よりもシラバス提示の目標を達成したとする割合が多いのはやや不可解であるが、誤差の範囲と考えるべきか。一般教養科目についても専門科目と同様に授業外学習が必須であるとの学生の意識をより一層定着させるために、予習を前提とする授業運営、復習を必要とする期末テストやレポート課題の実施を促してゆきたい。
	0.9 (1)	2.7 (3)	13.3 (15)	38.9 (44)	39.8 (45)	3.5 (4)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	0.9 (1)	4.4 (5)	8.8 (10)	29.2 (33)	30.1 (34)	9.7 (11)	8.0 (9)	5.3 (6)	3.5 (4)	
	3.5 (4)	7.1 (8)	6.2 (7)	20.4 (23)	38.9 (44)	21.2 (24)	2.7 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.9 (1)	3.5 (4)	14.2 (16)	18.6 (21)	25.7 (29)	20.4 (23)	12.4 (14)	4.4 (5)	0.0 (0)	
	1.8 (2)	6.2 (7)	21.2 (24)	36.3 (41)	23.9 (27)	9.7 (11)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.0 (0)	3.5 (4)	9.7 (11)	14.2 (16)	35.4 (40)	20.4 (23)	11.5 (13)	1.8 (2)	2.7 (3)	0.9 (1)	
	0.9 (1)	4.4 (5)	1.8 (2)	17.7 (20)	30.1 (34)	35.4 (40)	9.7 (11)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.0 (0)	0.9 (1)	2.7 (3)	8.8 (10)	24.8 (28)	38.9 (44)	14.2 (16)	5.3 (6)	4.4 (5)	[授業[内容]] No.5「シラバス記載内容の遂行」(97%→97%)の肯定的評価は高いままで前年から変化なし、No.6「授業内容の理解」(94.1%→93.4%)は微減しているものの尚良好な状況と評価である。シラバスについては、確認していない内容について、その通りに遂行されたかどうかを評価することはできないはずであるから、ここでもNo.1との整合性はやや疑問である。また、学生の理解度は授業内容レベルを下げることでとも上げられるため、結果だけに注目してはならない。学生にとって多少負荷のかかる質の高い内容をしっかりと理解させるための試行錯誤も重視したい。次年度は新分類で
	4.4 (5)	8.0 (9)	16.8 (19)	38.9 (44)	25.7 (29)	6.2 (7)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	2.7 (3)	4.4 (5)	5.3 (6)	21.2 (24)	26.5 (30)	19.5 (22)	11.5 (13)	4.4 (5)	4.4 (5)	
	4.4 (5)	5.3 (6)	12.4 (14)	33.6 (38)	36.3 (41)	8.0 (9)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	2.7 (3)	3.5 (4)	5.3 (6)	8.8 (10)	18.6 (21)	31.9 (36)	12.4 (14)	10.6 (12)	6.2 (7)	[授業[教え方等]] No.7「明快な説明」(94.4%→93.6%)、No.8「聞き取りやすさ」(94.4%→93.6%)、No.9「効果的な授業進行」(94%→93%)はいずれも肯定的評価が微減となったが、科目数の増加を考慮すれば誤差の範囲とも考えられ、個々の担当教員の創意工夫が継続しているものと考えられる。
	7.1 (8)	11.5 (13)	15.0 (17)	39.8 (45)	23.0 (26)	3.5 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	1.8 (2)	4.4 (5)	6.2 (7)	3.5 (4)	21.2 (24)	26.5 (30)	18.6 (21)	11.5 (13)	6.2 (7)	
	7.1 (8)	11.5 (13)	26.5 (30)	35.4 (40)	16.8 (19)	2.7 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	4.4 (5)	2.7 (3)	4.4 (5)	15.9 (18)	17.7 (20)	25.7 (29)	15.0 (17)	8.8 (10)	5.3 (6)	
	6.2 (7)	8.0 (9)	21.2 (24)	34.5 (39)	24.8 (28)	4.4 (5)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	5.3 (6)	17.7 (20)	21.2 (24)	30.1 (34)	11.5 (13)	10.6 (12)	3.5 (4)	[環境・設備等] No.10「教室の学習環境」(92.8%→92%)とNo.11「参考図書の図書館所蔵状況」(90.8%→91.1%)も肯定的評価はそれぞれ微減と増加となった。特にNo.11は長らく80%台にあったものが前回から90%を超え、今回さらに微増した。一般教養科目についても図書館の資料を用いた予習復習が必要との認識が学生に浸透している兆しであろうか。今後もクラスの大規模化・教室環境の悪化が生じないように、科目の配置等に注意したい。また、図書館の関連図書については一層の充実を図りたい。
	7.1 (8)	9.7 (11)	23.0 (26)	41.6 (47)	15.0 (17)	3.5 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.0 (0)	1.8 (2)	8.0 (9)	25.7 (29)	37.2 (42)	18.6 (21)	4.4 (5)	2.7 (3)	1.8 (2)	
	2.7 (3)	5.3 (6)	13.3 (15)	40.7 (46)	25.7 (29)	12.4 (14)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

教養科目の経年変化はこのところ全体として改善・向上の傾向がみられたため、今回は肯定的評価が微減してやや停滞の様相を呈している。しかし、科目数の増加や分類の見直し等、変革の途上にあることを考慮すれば、全体として望ましい状況が継続している。

4.今後の方針

新学科・新学部の開設申請に伴うカリキュラム保証の関係で大幅なカリキュラム改革は一旦延期されるが、現状開講されている科目の状況を精査し、より一層魅力的な教養教育を展開したい。教養教育＝大規模講義ではなく、座学とアクティブラーニングの開講バランスにも配慮したい。

1.概評

平成27年度後期以降、全般的に高い水準が続いており、おおむね良好な授業が提供されていると考えられる。今期は問 1を除いて肯定率が90%を越えており、項目によっては年々わずかながらでも上昇しているものがあり、教員の授業に対する意識も向上していると受け止めている。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A、B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ ≦100	考察
1	2.1 (4)	1.5 (3)	8.7 (17)	14.4 (28)	23.6 (46)	22.6 (44)	12.8 (25)	8.2 (16)	3.6 (7)	2.6 (5)	【学生】 問 2， 3， 4ともに90%の高い水準を維持しており、平成27年度後期から毎年上昇している。授業に対する学生の意識がわずかずつでも上向いていると受け止められる。学生は課題などにもまじめに取り組んでいるようであり、教員は授業の到達目標を示し、より学生の意識を高めるよう努力していかなければならない。問 1のシラバスの参照については、高い水準ではあるものの。肯定率が上がったり下がったりであり、シラバス確認を各学科で指導を徹底する必要がある。
	2.1 (4)	4.1 (8)	19.0 (37)	24.1 (47)	23.1 (45)	21.0 (41)	5.6 (11)	1.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.5 (1)	1.0 (2)	3.6 (7)	7.2 (14)	14.4 (28)	24.6 (48)	17.9 (35)	22.1 (43)	7.2 (14)	1.5 (3)	
	1.0 (2)	10.3 (20)	22.1 (43)	20.5 (40)	19.5 (38)	20.0 (39)	4.6 (9)	2.1 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.5 (1)	0.0 (0)	2.6 (5)	9.2 (18)	14.4 (28)	23.1 (45)	21.0 (41)	17.9 (35)	9.7 (19)	1.5 (3)	
	2.1 (4)	10.3 (20)	25.1 (49)	23.6 (46)	20.0 (39)	14.9 (29)	3.6 (7)	0.0 (0)	0.5 (1)	0.0 (0)	
4	2.1 (4)	5.6 (11)	14.4 (28)	16.9 (33)	20.5 (40)	18.5 (36)	14.9 (29)	6.7 (13)	0.5 (1)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	0.5 (1)	9.7 (19)	19.5 (38)	20.5 (40)	23.1 (45)	20.0 (39)	5.6 (11)	1.0 (2)	0.0 (0)	
5	1.5 (3)	0.5 (1)	0.5 (1)	4.6 (9)	11.8 (23)	19.5 (38)	23.6 (46)	23.1 (45)	11.8 (23)	3.1 (6)	【授業[内容]】 問6はここ4年間の数字をみると一番高い水準となっている。外国語では各言語のコーディネーターが非常勤に教員と密に連絡を取り、よりよい授業を目指していることの結果が出たものと考えられる。今後ともわかりやすい授業でありながらも厳しく学生を指導するよう教員に求めている。
	3.6 (7)	10.3 (20)	28.2 (55)	26.2 (51)	18.5 (36)	10.8 (21)	2.1 (4)	0.5 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	1.0 (2)	3.6 (7)	2.1 (4)	8.2 (16)	13.3 (26)	20.0 (39)	25.6 (50)	17.9 (35)	6.2 (12)	2.1 (4)	
	2.1 (4)	8.7 (17)	23.1 (45)	27.2 (53)	19.0 (37)	11.3 (22)	7.7 (15)	0.5 (1)	0.5 (1)	0.0 (0)	
7	2.1 (4)	1.0 (2)	1.0 (2)	3.6 (7)	10.3 (20)	13.3 (26)	18.5 (36)	20.0 (39)	20.0 (39)	10.3 (20)	【授業[教え方等]】 全般的に高い評価である。ほとんどの教員がFDアンケートの結果、特に自由記述欄を参照して、改善に役立てていると考えられる。何か問題があれば個々の教員と話し合い、授業改善を進めているが、今後もこの方針を堅持し、よりよい授業を目指していく。
	10.8 (21)	21.0 (41)	28.2 (55)	19.0 (37)	14.9 (29)	5.1 (10)	0.5 (1)	0.0 (0)	0.5 (1)	0.0 (0)	
8	1.0 (2)	1.5 (3)	1.5 (3)	4.1 (8)	4.6 (9)	14.4 (28)	13.8 (27)	24.6 (48)	20.5 (40)	13.8 (27)	
	13.8 (27)	22.1 (43)	28.2 (55)	19.5 (38)	10.3 (20)	4.6 (9)	0.5 (1)	0.5 (1)	0.5 (1)	0.0 (0)	
9	1.5 (3)	1.5 (3)	3.1 (6)	3.6 (7)	7.7 (15)	16.4 (32)	15.9 (31)	24.6 (48)	16.9 (33)	8.7 (17)	
	10.3 (20)	20.0 (39)	26.7 (52)	19.0 (37)	15.4 (30)	6.7 (13)	2.1 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	1.0 (2)	2.1 (4)	3.6 (7)	14.9 (29)	19.5 (38)	28.7 (56)	23.1 (45)	7.2 (14)	【環境・設備等】 クラス人数については、外国語ということもあり、多人数にならないようにしているので高い評価が得られていると考えられる。参考図書は学習意欲を高めるために必要であり、各教員への図書の推薦をお願いしているところである。
	9.2 (18)	25.6 (50)	30.8 (60)	15.9 (31)	13.3 (26)	4.1 (8)	0.5 (1)	0.5 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	2.1 (4)	0.5 (1)	4.1 (8)	8.7 (17)	18.5 (36)	26.2 (51)	23.1 (45)	12.8 (25)	3.1 (6)	1.0 (2)	
	3.1 (6)	5.1 (10)	24.6 (48)	23.6 (46)	22.1 (43)	15.4 (30)	5.1 (10)	1.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

外国語学習は簡単に習得できる方法はなく、地道に文法事項を学習し、声に出し、暗記をし、というオーソドックな方法しかない。各教員はそうにして外国語を習得してきており、教室でもそのような方法で教え、それによって学生は力をつけてきているため高い評価が得られているものとする。

4.今後の方針

1年生向けの外国語では、いくつかの言語では教科書がばらばらであったが、来年度からはすべての言語で統一教科書をそれぞれ使用することにした。各言語ではコーディネーターが年に1度、年度の最初か最後に、次年度に向けて非常勤教員とのミーティングを実施し、授業運営について話し合いをしている。ミーティングがもてない場合でもコーディネーターは非常勤教員と密に連絡をとり、スムーズに授業が運営できるようにしている。来年度もこの方針を続けていく。

1.概評

すべての質問項目で肯定的評価が95%を上回っており、全体として良好であると言える。学生との双方向的な授業により、主体的に学べるものになっている。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ ≦100	考察
1	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	4.8 (1)	14.3 (3)	14.3 (3)	28.6 (6)	14.3 (3)	14.3 (3)	9.5 (2)	【学生】 「シラバスの確認」や「授業以外での学習」は次第に定着してきた。「到達目標」については、学生自身が判断できる形で示すことが必要である。
	4.8 (1)	23.8 (5)	28.6 (6)	19.0 (4)	9.5 (2)	14.3 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	23.8 (5)	19.0 (4)	28.6 (6)	19.0 (4)	9.5 (2)	
	4.8 (1)	23.8 (5)	33.3 (7)	14.3 (3)	19.0 (4)	4.8 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	28.6 (6)	19.0 (4)	23.8 (5)	19.0 (4)	9.5 (2)	
	4.8 (1)	23.8 (5)	28.6 (6)	28.6 (6)	9.5 (2)	4.8 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	4.8 (1)	9.5 (2)	23.8 (5)	23.8 (5)	23.8 (5)	4.8 (1)	9.5 (2)	
	4.8 (1)	9.5 (2)	28.6 (6)	38.1 (8)	9.5 (2)	4.8 (1)	4.8 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	19.0 (4)	9.5 (2)	42.9 (9)	19.0 (4)	9.5 (2)	【授業[内容]】 授業内容は、学生が興味関心を持ち学びたいと考えるものと、学生が学ぶ必要のあるものの両面から構成することが大切である。概ねこの条件は満たされていたが、さらに教職課程としてのカリキュラムマネジメントを進めていく。
	9.5 (2)	23.8 (5)	47.6 (10)	9.5 (2)	9.5 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	9.5 (2)	19.0 (4)	38.1 (8)	14.3 (3)	19.0 (4)	
	9.5 (2)	23.8 (5)	38.1 (8)	23.8 (5)	0.0 (0)	4.8 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	9.5 (2)	4.8 (1)	14.3 (3)	52.4 (11)	19.0 (4)	【授業[教え方等]】 教職の授業は、教え方も学生が学ぶ重要な要素である。講義や文献・資料の読解、ペアやグループでの討論・意見交換、発表・プレゼンテーションなど多様な方法の組み合わせを行うことが重要である。
	19.0 (4)	47.6 (10)	19.0 (4)	9.5 (2)	0.0 (0)	4.8 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	4.8 (1)	0.0 (0)	4.8 (1)	0.0 (0)	28.6 (6)	38.1 (8)	23.8 (5)	
	19.0 (4)	47.6 (10)	23.8 (5)	0.0 (0)	4.8 (1)	0.0 (0)	4.8 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	4.8 (1)	0.0 (0)	4.8 (1)	4.8 (1)	38.1 (8)	33.3 (7)	14.3 (3)	
	9.5 (2)	47.6 (10)	28.6 (6)	4.8 (1)	4.8 (1)	0.0 (0)	4.8 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	4.8 (1)	0.0 (0)	4.8 (1)	14.3 (3)	28.6 (6)	28.6 (6)	19.0 (4)	【環境・設備等】 図書館の資料についての意見が見られた。授業に関する資料の充実には一層留意する。
	19.0 (4)	23.8 (5)	38.1 (8)	9.5 (2)	4.8 (1)	0.0 (0)	4.8 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	4.8 (1)	9.5 (2)	9.5 (2)	28.6 (6)	23.8 (5)	23.8 (5)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	28.6 (6)	38.1 (8)	14.3 (3)	9.5 (2)	4.8 (1)	4.8 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

（ ）は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

教職課程は非常勤講師の担当科目が多いため、全体としての意思統一・意思疎通が難しい。今後とも様々な方法で、教職課程全体としての授業改善の取り組みを進める必要がある。

4.今後の方針

3. で述べたように、常勤教員と非常勤教員との連携をより強め、教職課程として統一のとれた授業を実施できるようにする。

1.概評

昨年度後期と比較して大きくポイントが下がった項目はないが、3については昨年度後期よりも1.4ポイント下がった。ただし、すべての項目で、本年度前期のポイントを上回った。大学全体の平均と比較しても、3以外は平均よりも高い、または同じであった。学科の科目でも【学生】の項目で1科目、【授業】の項目で2科目が肯定評価が70ポイントを下回ったが、それ以外は肯定的評価の数値が高い。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。

（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ ≤100	考察
1	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	5.1 (5)	5.1 (5)	15.2 (15)	23.2 (23)	27.3 (27)	17.2 (17)	7.1 (7)	【学生】 3の項目以外は大学の平均値を超えていた。項目3については、41科目が平均値を下回った。下回った科目には演習が4科目あり、授業外の学習を学生がどのように捉えているか探る必要がある。ただし、肯定評価が70ポイントを下回ったのは1科目だけであった。一方、58科目で平均値を超えており、授業外の学習をしたという達成感を感じる授業のほうが多いと言えよう。そのほか、1シラバスの確認も必修科目（入門科目）でも80%以上がA+Bの回答をしており、シラバスの確認ができていることがわかる。
	7.1 (7)	20.2 (20)	31.3 (31)	23.2 (23)	14.1 (14)	3.0 (3)	1.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	0.0 (0)	1.0 (1)	6.1 (6)	8.1 (8)	21.2 (21)	21.2 (21)	16.2 (16)	18.2 (18)	8.1 (8)	
	10.1 (10)	15.2 (15)	20.2 (20)	19.2 (19)	24.2 (24)	9.1 (9)	1.0 (1)	0.0 (0)	1.0 (1)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	9.1 (9)	6.1 (6)	10.1 (10)	25.3 (25)	17.2 (17)	20.2 (20)	12.1 (12)	
	13.1 (13)	21.2 (21)	23.2 (23)	24.2 (24)	14.1 (14)	4.0 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.0 (0)	1.0 (1)	6.1 (6)	10.1 (10)	19.2 (19)	20.2 (20)	19.2 (19)	16.2 (16)	7.1 (7)	1.0 (1)	
	0.0 (0)	11.1 (11)	18.2 (18)	23.2 (23)	19.2 (19)	18.2 (18)	8.1 (8)	1.0 (1)	1.0 (1)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	2.0 (2)	4.0 (4)	9.1 (9)	15.2 (15)	31.3 (31)	26.3 (26)	12.1 (12)	【授業[内容]】 項目5は大学平均と同じ、項目6は大学平均を1.3ポイント上回った。どちらの項目も前期よりも評価はあがっている。6の理解できたかどうかについては、肯定評価が100ポイントの科目が54科目で半分以上を占め、90～99ポイントも36科目で学生の理解につながる科目が多い結果であった。これについては、学科の独自質問項目で、難易度が「平易であった」という回答に50ポイント程度ついた科目が2科目あり、平易な内容に傾かないような工夫も必要であろう。
	11.1 (11)	29.3 (29)	37.4 (37)	12.1 (12)	8.1 (8)	2.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	1.0 (1)	3.0 (3)	3.0 (3)	7.1 (7)	10.1 (10)	26.3 (26)	21.2 (21)	19.2 (19)	9.1 (9)	【授業[教え方等]】 いずれの項目も肯定評価が大学平均より2ポイント程度高く、また前期の平均よりも高くなった。全99科目のうちの肯定評価の科目数を見ると、7は100ポイントが64科目、90～99が28科目、8は100ポイントが65科目、90～99が26科目、9は100ポイントが61科目、90～99が28科目で、100ポイントの科目が全体の2/3を占めている。これらの科目には言語系・文学系・スキル系等の偏りはなかった。学科の独自質問項目で「知的好奇心が刺激されたか」の回答も肯定的評価が90ポイントを超える科目が49科目あり、教え方の高評価は学生の知的好奇心を刺激することがうかがえる。
	8.1 (8)	20.2 (20)	26.3 (26)	23.2 (23)	14.1 (14)	8.1 (8)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	1.0 (1)	2.0 (2)	3.0 (3)	2.0 (2)	5.1 (5)	18.2 (18)	14.1 (14)	27.3 (27)	27.3 (27)	
	27.3 (27)	29.3 (29)	17.2 (17)	16.2 (16)	6.1 (6)	3.0 (3)	0.0 (0)	1.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	1.0 (1)	2.0 (2)	0.0 (0)	3.0 (3)	5.1 (5)	16.2 (16)	14.1 (14)	27.3 (27)	31.3 (31)	
	29.3 (29)	31.3 (31)	19.2 (19)	13.1 (13)	5.1 (5)	1.0 (1)	0.0 (0)	1.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	2.0 (2)	1.0 (1)	2.0 (2)	5.1 (5)	7.1 (7)	17.2 (17)	13.1 (13)	28.3 (28)	24.2 (24)	
	22.2 (22)	29.3 (29)	20.2 (20)	14.1 (14)	8.1 (8)	5.1 (5)	0.0 (0)	1.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	3.0 (3)	5.1 (5)	12.1 (12)	26.3 (26)	32.3 (32)	21.2 (21)	【環境・設備等】 環境・設備も大学平均を上回っており、おおむね良好である。参考書についても良好であるが、4科目で否定的評価が10%を超える値を示している。授業で求められる書籍の充実を担当教員と相談しつつ、そろえたい。と同時に、有効な書籍の探し方についても、演習科目等を中心にレクチャーしたい。
	20.2 (20)	39.4 (39)	24.2 (24)	12.1 (12)	4.0 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	1.0 (1)	1.0 (1)	3.0 (3)	5.1 (5)	12.1 (12)	23.2 (23)	30.3 (30)	15.2 (15)	9.1 (9)	
	12.1 (12)	25.3 (25)	27.3 (27)	20.2 (20)	8.1 (8)	5.1 (5)	1.0 (1)	1.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	

（ ）は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

全体に高い評価であるが、課題をあげるとすると授業外の学習に対する意識付であろう。ポイントは年度によっても異なるが、若干は上昇している。

4.今後の方針

現状を持続、向上させたい。また、学生の知的好奇心や新しい物ごとの見方に関する学科の独自質問のポイントがさらに上昇するような工夫が、それぞれの授業で必要であろう。

1.概評

全体的な数字としては、前年度を上回るパーセンテージで肯定的評価の科目が多く、前期に引き続き授業改善の効果が数値によっても確認できる。4年次の卒業論文執筆までに科目の順次性に則った効果的な学習指導を行っていきたい。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ ≤100	考察
1	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	4.0 (3)	10.7 (8)	37.3 (28)	22.7 (17)	17.3 (13)	6.7 (5)	1.3 (1)	[学生] 問1、問2、問3ともに平均値を上回っており、学生自身がシラバスの内容を確認し、学習にも積極的に取り組む姿勢が見られたといえる。ただし、問4については到達目標に届いたと考える学生がやや低い傾向にある。自身の取り組みをいささか低く評価している向きもあるかもしれないが、授業の初めに到達目標を明確にして学習に対する自信をつけていくようにしていきたい。
	1.3 (1)	9.3 (7)	20.0 (15)	30.7 (23)	30.7 (23)	8.0 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	1.3 (1)	4.0 (3)	10.7 (8)	16.0 (12)	18.7 (14)	24.0 (18)	13.3 (10)	9.3 (7)	2.7 (2)	
	4.0 (3)	8.0 (6)	14.7 (11)	20.0 (15)	24.0 (18)	24.0 (18)	4.0 (3)	0.0 (0)	1.3 (1)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	1.3 (1)	1.3 (1)	9.3 (7)	10.7 (8)	16.0 (12)	24.0 (18)	24.0 (18)	10.7 (8)	2.7 (2)	
	4.0 (3)	10.7 (8)	26.7 (20)	28.0 (21)	21.3 (16)	9.3 (7)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.0 (0)	1.3 (1)	12.0 (9)	20.0 (15)	25.3 (19)	18.7 (14)	13.3 (10)	4.0 (3)	2.7 (2)	2.7 (2)	
	0.0 (0)	6.7 (5)	6.7 (5)	10.7 (8)	16.0 (12)	37.3 (28)	16.0 (12)	6.7 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.0 (0)	1.3 (1)	4.0 (3)	12.0 (9)	20.0 (15)	25.3 (19)	24.0 (18)	8.0 (6)	5.3 (4)	[授業[内容]] 全体的な数字が高く、授業について満足度が高いことは指摘できる。これも各教員の改善が進められていったものと評価したい。評価が低い科目の担当者には学科から改善の方策について検討していただくように申し入れたい。もっとも情報の精査を行い検証も行っていききたい。
	5.3 (4)	9.3 (7)	26.7 (20)	29.3 (22)	16.0 (12)	10.7 (8)	2.7 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	1.3 (1)	2.7 (2)	6.7 (5)	18.7 (14)	26.7 (20)	18.7 (14)	12.0 (9)	10.7 (8)	2.7 (2)	
	2.7 (2)	12.0 (9)	14.7 (11)	22.7 (17)	26.7 (20)	18.7 (14)	2.7 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	1.3 (1)	1.3 (1)	6.7 (5)	10.7 (8)	16.0 (12)	20.0 (15)	20.0 (15)	12.0 (9)	12.0 (9)	[授業[教え方等]] 教え方等についても全体的な数字は高く、日々改善していただいている結果と評価できる。一部の必修科目など、評価が低い科目の担当者には学科から改善の方策について検討していただくように申し入れたい。もっとも情報の精査を行い検証も行っていきたい。
	13.3 (10)	12.0 (9)	18.7 (14)	29.3 (22)	17.3 (13)	5.3 (4)	2.7 (2)	1.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	0.0 (0)	1.3 (1)	2.7 (2)	6.7 (5)	18.7 (14)	26.7 (20)	14.7 (11)	18.7 (14)	10.7 (8)	
	12.0 (9)	17.3 (13)	24.0 (18)	28.0 (21)	14.7 (11)	2.7 (2)	1.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	1.3 (1)	1.3 (1)	6.7 (5)	13.3 (10)	16.0 (12)	24.0 (18)	21.3 (16)	6.7 (5)	9.3 (7)	
	9.3 (7)	12.0 (9)	21.3 (16)	25.3 (19)	20.0 (15)	8.0 (6)	4.0 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	1.3 (1)	4.0 (3)	9.3 (7)	13.3 (10)	24.0 (18)	30.7 (23)	13.3 (10)	4.0 (3)	[環境・設備等] 例年だが、狭い、寒いという指摘を受けた。教室環境は学習を行う上で大事なことでもあるので、大学へ改善をお願いしていきたい。図書館へ必要な書籍の要望も出していくようにしていきたい。
	4.0 (3)	20.0 (15)	30.7 (23)	25.3 (19)	16.0 (12)	4.0 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.0 (0)	5.3 (4)	9.3 (7)	20.0 (15)	29.3 (22)	26.7 (20)	8.0 (6)	1.3 (1)	0.0 (0)	
	2.7 (2)	2.7 (2)	22.7 (17)	32.0 (24)	25.3 (19)	8.0 (6)	4.0 (3)	2.7 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	

（ ）は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

必修科目については授業の理解そのものに対する評価が低く出る傾向が強い。授業担当者へ学生に対して内容の周知を徹底してもらうのとともに、授業への工夫を要望していく。一方、学生に対しても卒業論文とは違う内容であったとしても必修科目の学問的意義を理解してもらい、積極的な授業への参加を促していきたい。

4.今後の方針

授業改善の余地がある科目については、学科内で情報を共有し、授業の内容や理解度を高められるように取り組んでいきたい。

1.概評

いずれの設問においても、肯定的評価（A+B）の割合の平均が90%以上の高い値を示し、学生の授業態度、教員の授業運営の双方が良好であることがわかる。また、昨年度と比較して、ほとんどの設問において肯定的評価の割合が1ポイント前後上昇しており、各科目において授業改善が進んでいることが確認できた。引き続き、学生の主体的な学びを促し、授業運営の改善に取り組んでいきたい。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。

（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ ≦100	考察
1	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	6.5 (2)	16.1 (5)	48.4 (15)	16.1 (5)	12.9 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	[学生] いずれの設問においても、肯定的評価（A+B）の割合の平均が90%を超え、学生の自己評価は高かった。特に「授業への積極的な取り組み」（設問No.2）に対する肯定的評価の割合は96%と、ほとんどの学生が授業に主体的・積極的に授業に参加したことがうかがえる。
	0.0 (0)	3.2 (1)	16.1 (5)	35.5 (11)	35.5 (11)	9.7 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	6.5 (2)	25.8 (8)	29.0 (9)	22.6 (7)	6.5 (2)	9.7 (3)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	9.7 (3)	12.9 (4)	19.4 (6)	38.7 (12)	19.4 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	6.5 (2)	22.6 (7)	9.7 (3)	29.0 (9)	12.9 (4)	16.1 (5)	3.2 (1)	
	3.2 (1)	12.9 (4)	29.0 (9)	19.4 (6)	22.6 (7)	12.9 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.0 (0)	0.0 (0)	6.5 (2)	19.4 (6)	41.9 (13)	19.4 (6)	9.7 (3)	3.2 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	0.0 (0)	6.5 (2)	6.5 (2)	45.2 (14)	29.0 (9)	9.7 (3)	3.2 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	12.9 (4)	16.1 (5)	45.2 (14)	12.9 (4)	12.9 (4)	0.0 (0)	[授業[内容]] いずれの設問においても、肯定的評価（A+B）の割合の平均が90%を超え、授業内容に関する評価も良好であった。特に「理解度」（設問No.6）の設問は昨年に引き続きポイントが上昇しており、学生の理解を促すための授業改善がなされていることがうかがえる。
	0.0 (0)	9.7 (3)	16.1 (5)	48.4 (15)	19.4 (6)	6.5 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	0.0 (0)	3.2 (1)	9.7 (3)	22.6 (7)	25.8 (8)	12.9 (4)	9.7 (3)	16.1 (5)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	12.9 (4)	12.9 (4)	25.8 (8)	29.0 (9)	19.4 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	0.0 (0)	3.2 (1)	3.2 (1)	16.1 (5)	19.4 (6)	19.4 (6)	9.7 (3)	16.1 (5)	12.9 (4)	[授業[教え方等]] いずれの設問においても、肯定的評価（A+B）の割合の平均が90%を超え、教え方に関する評価も良好であった。特に「説明の明快さ」（設問No.7）の設問は昨年に引き続きポイントが上昇しており、学生が理解しやすい授業運営へと改善がなされていることがここでも確認できた。
	12.9 (4)	12.9 (4)	16.1 (5)	35.5 (11)	16.1 (5)	6.5 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	3.2 (1)	6.5 (2)	16.1 (5)	29.0 (9)	12.9 (4)	25.8 (8)	6.5 (2)	
	9.7 (3)	22.6 (7)	29.0 (9)	25.8 (8)	9.7 (3)	3.2 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	0.0 (0)	3.2 (1)	3.2 (1)	19.4 (6)	19.4 (6)	19.4 (6)	16.1 (5)	16.1 (5)	3.2 (1)	
	3.2 (1)	16.1 (5)	22.6 (7)	25.8 (8)	22.6 (7)	9.7 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	9.7 (3)	16.1 (5)	25.8 (8)	25.8 (8)	19.4 (6)	3.2 (1)	[環境・設備等] いずれの設問においても、肯定的評価（A+B）の割合の平均が90%を超え、学習環境に関する評価も良好であった。特に「図書館の参考書」（設問No.11）についての設問では昨年に引き続きポイントが上昇しており、図書館に心理学関連の図書が充実しつつあることと関連すると考える。
	3.2 (1)	29.0 (9)	25.8 (8)	35.5 (11)	6.5 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	22.6 (7)	35.5 (11)	19.4 (6)	16.1 (5)	3.2 (1)	3.2 (1)	
	3.2 (1)	3.2 (1)	29.0 (9)	22.6 (7)	35.5 (11)	6.5 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

（ ）は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

学科の専門教育科目を総論・講義系科目群（16科目）と研究法・実習系科目群（8科目）に分け、各設問の肯定的評価の割合を比較した。これまで研究法・実習科目の「理解度」（設問No.6）の評価は講義科目より低い傾向があったが、本年度ではその差が小さくなり、研究法・実習科目での理解度を上げるための授業改善がなされたことがうかがえる。また、必修科目（7科目）と選択科目（17科目）の比較では、必修科目における「目標到達度」（設問No.4）の評価がやや低い傾向がみられた。

4.今後の方針

平成30年度からの新カリキュラムでは、「公認心理師」「認定心理士（心理調査）」「社会調査士」の3資格に対応するとともに、多様なニーズを持つ学生に対応するため、必修の研究法・実習科目の再編成を行った。今後は新カリキュラムの進行に伴う学習効果の検討を、教員間で情報交換しながら随時行っていく予定である。

1.概評

本学科のアンケート実施科目92科目（回答者数2,443名）の集計結果、肯定的な評価の割合は、問 1（シラバスの確認）、問 3（授業外での学習）、問 4（到達目標の達成）、問11（参考書の整備）の項目において全体平均を上回っている。しかしながら、昨年度同期に比べ、肯定的評価が低くなっている項目もみられる。学生の主体的な授業参加や学科教員による授業の進め方等への工夫が求められる。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ ≤100	考察
1	0.0 (0)	2.2 (2)	7.6 (7)	10.9 (10)	14.1 (13)	21.7 (20)	19.6 (18)	6.5 (6)	12.0 (11)	5.4 (5)	[学生] 問 1～問 4 の項目においては、いずれも95%以上の肯定的評価であった。しかしながら、肯定的評価は昨年度より若干低い傾向がみられた。特に、問 2（授業への参加度）が1.6ポイント、問 3（授業外での学習）が1.8ポイント減少しており、昨年度及び今年度前期に高い評価であった学生の主体的な学習姿勢が十分に定着できていないことがうかがえる。 1年、2年次の学科必修科目及び資格取得関連の一部の指定科目において若干の課題がみられた。学生の学習意欲の向上に向けた働きかけが求められる。
	4.3 (4)	9.8 (9)	10.9 (10)	27.2 (25)	22.8 (21)	14.1 (13)	10.9 (10)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	0.0 (0)	4.3 (4)	9.8 (9)	19.6 (18)	19.6 (18)	13.0 (12)	15.2 (14)	10.9 (10)	7.6 (7)	
	6.5 (6)	9.8 (9)	20.7 (19)	19.6 (18)	15.2 (14)	21.7 (20)	5.4 (5)	1.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	5.4 (5)	7.6 (7)	10.9 (10)	15.2 (14)	22.8 (21)	20.7 (19)	10.9 (10)	6.5 (6)	
	6.5 (6)	7.6 (7)	29.3 (27)	26.1 (24)	10.9 (10)	15.2 (14)	4.3 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.0 (0)	5.4 (5)	9.8 (9)	14.1 (13)	17.4 (16)	18.5 (17)	12.0 (11)	10.9 (10)	7.6 (7)	4.3 (4)	
	3.3 (3)	6.5 (6)	13.0 (12)	18.5 (17)	16.3 (15)	25.0 (23)	12.0 (11)	5.4 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.0 (0)	4.3 (4)	5.4 (5)	14.1 (13)	9.8 (9)	21.7 (20)	20.7 (19)	16.3 (15)	7.6 (7)	[授業[内容]] 問 5（シラバスに記載された内容で進めている）及び問 6（授業内容の理解）の肯定的評価は 1 ポイント減であり、昨年度同期とほぼ同水準であった。適切な授業運営は継続して最も高い評価である。今後も個々の学生の理解度を高めていくための授業内容に関する工夫が求められる。
	7.6 (7)	17.4 (16)	19.6 (18)	25.0 (23)	15.2 (14)	8.7 (8)	6.5 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	6.5 (6)	2.2 (2)	7.6 (7)	12.0 (11)	21.7 (20)	15.2 (14)	19.6 (18)	7.6 (7)	7.6 (7)	
	6.5 (6)	8.7 (8)	22.8 (21)	20.7 (19)	22.8 (21)	14.1 (13)	4.3 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	1.1 (1)	0.0 (0)	5.4 (5)	6.5 (6)	9.8 (9)	12.0 (11)	17.4 (16)	27.2 (25)	9.8 (9)	10.9 (10)	[授業[教え方等]] 問7（教員の説明の明快さ）、問8（教員の話の聞き取りやすさ）、問 9（授業の進め方）の肯定的評価は93%以上を示しているものの、昨年度同期に比べてやや低い傾向となった。特に、問 8 は、昨年度同期に比べて1.5ポイント減であり、分かりやすい授業の進め方に関する工夫が求められる。
	10.9 (10)	8.7 (8)	34.8 (32)	21.7 (20)	12.0 (11)	7.6 (7)	4.3 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	1.1 (1)	3.3 (3)	5.4 (5)	12.0 (11)	9.8 (9)	16.3 (15)	26.1 (24)	14.1 (13)	12.0 (11)	
	13.0 (12)	14.1 (13)	28.3 (26)	22.8 (21)	10.9 (10)	10.9 (10)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	4.3 (4)	3.3 (3)	5.4 (5)	15.2 (14)	12.0 (11)	16.3 (15)	27.2 (25)	6.5 (6)	9.8 (9)	
	10.9 (10)	7.6 (7)	31.5 (29)	21.7 (20)	14.1 (13)	12.0 (11)	2.2 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	1.1 (1)	8.7 (8)	15.2 (14)	28.3 (26)	23.9 (22)	8.7 (8)	14.1 (13)	[環境・設備等] 問10（授業環境）及び問11（参考書の整備）の肯定的評価は、昨年度同期と同水準である。問11は、図書館や学科の資料室の活用について周知してきたことの影響もあり、昨年度より0.2ポイント増であった。
	15.2 (14)	16.3 (15)	28.3 (26)	25.0 (23)	12.0 (11)	3.3 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	1.1 (1)	1.1 (1)	9.8 (9)	18.5 (17)	21.7 (20)	20.7 (19)	12.0 (11)	7.6 (7)	7.6 (7)	
	6.5 (6)	9.8 (9)	21.7 (20)	21.7 (20)	20.7 (19)	15.2 (14)	3.3 (3)	1.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	

（ ）は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

全項目において肯定的評価100%の評価を得た科目数は、18科目であった。科目構成としては、少人数の実習演習系科目がほとんどを占めている。特に3年次の国家試験指定科目である社会福祉士実習演習系科目の肯定的評価が最も高かったことから、1か月以上の実習体験を通した体系的な学習効果が得られたものと考えられる。

一方で、語学やプロジェクト型学習等の学科必修科目においては継続的に評価が低い項目が見られる。語学系科目については、授業の進め方や内容、到達目標の見直しなどについて継続的に改善の依頼をしていく。プロジェクト型科目においては、数年にわたり、授業内容の改善を図っており評価が高まってきているが、2年次以降のプロジェクト型科目については、学生の自由記述から、発表中心の授業の進め方等に関し て見直しが求められる部分は何えた。

4.今後の方針

昨年度に引き続き、以下の内容を充実させていく。

- 1）キャリア教育及び資格養成カリキュラムの充実
- 学科科目の中でも医学系や理系科目において、授業の到達目標の達成度が低い傾向がある。これらの科目を履修する意味や資格取得に必要な適性を見極めた入学動機の確認や進路指導を合わせて行っていく。
- また、低学年において、積極的な授業参加態度を身につけることにやや課題がみられる。低学年から資格養成に関わる指定科目を多く配置していることから、学生の学習意欲を高めるための効果的な授業運営について継続的に検討を行う。
- 2）学科内のFDの充実
- 学科内のFDの充実を図るために、非常勤講師懇談科会や学科教員間で、授業の進め方等に関する研修情報等の共有を活発に行っていく。複数教員による授業担当の場合は、効果的な授業運営のための協議をより強化していく。

1.概評

後期開設科目104科目、総回答者数3,333人のアンケート結果である。すべての回答項目で、微差なものもあるが昨年度の数値を上回っている。また、全学の平均と比べても、すべての項目が上回っている。具体的にデータを検証すると、平成30年度後期に学科に着任した教員の授業評価が良好であり、その数値が全体の傾向をわずかに押し上げているとも考えられるが、いずれにしても学科教員・学生の良好な取り組みが反映されているアンケート結果だと考える。この結果を受け、これまでも行ってきた授業公開などのF Dの取り組みや、授業に適した教室の調整などを継続して実施していく予定である。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ ≦100	考察
1	0.0 (0)	0.0 (0)	2.0 (2)	6.1 (6)	8.2 (8)	29.6 (29)	23.5 (23)	20.4 (20)	5.1 (5)	5.1 (5)	[学生] 肯定的評価（A+B）の割合の平均は「シラバスによる事前確認（no.1）」が95.2%（昨年度後期95.1%）となっており、全学の93.5%よりわずかに高くなっているが、昨年度比ではほぼ変わっていない。「授業への積極的取り組み（No.2）」は97.0%（昨年度後期96.6%）で全学の96.9%とほぼ変わらず、昨年度からの変化も見られない。「授業外での学習(No.3)」は97.1%（昨年度後期96.4%）で微増しており、全校の95.7%と比べてもわずかに高い。「シラバスの到達目標の達成（No.4）」は、96.1%（昨年度後期96.3%）は全学の95.2%よりわずかに高いが、昨年度からはほぼ変化がない数字となっている。全般的に90%台後半の数字を示しており、学生の良好な取り組みが継続されていると考えられる。
	5.1 (5)	6.1 (6)	27.6 (27)	29.6 (29)	22.4 (22)	6.1 (6)	3.1 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	1.0 (1)	1.0 (1)	3.1 (3)	19.4 (19)	18.4 (18)	23.5 (23)	15.3 (15)	11.2 (11)	7.1 (7)	
	6.1 (6)	9.2 (9)	24.5 (24)	19.4 (19)	26.5 (26)	11.2 (11)	2.0 (2)	0.0 (0)	1.0 (1)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	1.0 (1)	3.1 (3)	6.1 (6)	11.2 (11)	30.6 (30)	27.6 (27)	12.2 (12)	8.2 (8)	
	6.1 (6)	16.3 (16)	28.6 (28)	30.6 (30)	13.3 (13)	4.1 (4)	1.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.0 (0)	2.0 (2)	3.1 (3)	13.3 (13)	20.4 (20)	20.4 (20)	23.5 (23)	10.2 (10)	3.1 (3)	4.1 (4)	
	2.0 (2)	5.1 (5)	17.3 (17)	19.4 (19)	23.5 (23)	19.4 (19)	11.2 (11)	2.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.0 (0)	1.0 (1)	2.0 (2)	5.1 (5)	13.3 (13)	25.5 (25)	26.5 (26)	17.3 (17)	9.2 (9)	[授業[内容]] 肯定的評価（A+B）の割合の平均は「授業がシラバスに書かれた内容で行われたか（no.5）」は、98.3%（昨年度後期97.5%）となっており、全学の97.3%を1ポイント上回っている。また、昨年度と比べても微増している。「授業内容の理解（No.6）」は96.5%（昨年度後期95.2%）で、全学の95.3%と比べても昨年度と比べても1ポイント以上高い水準となっている。学生面と同様に、授業の内容面でも90%代後半が維持されており、良好な取り組みの様子が見て取れる。
	7.1 (7)	14.3 (14)	34.7 (34)	26.5 (26)	12.2 (12)	5.1 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	1.0 (1)	3.1 (3)	7.1 (7)	5.1 (5)	20.4 (20)	12.2 (12)	28.6 (28)	17.3 (17)	5.1 (5)	[授業[教え方等]] 肯定的評価（A+B）の割合の平均は「教員の説明の明快さ（no.7）」が97.2%（昨年度後期95.6%）となっており、全学の95.0%より2ポイント以上高く、昨年度より1.5ポイント以上高い。「教員の話がよく聞き取れたか（No.8）」は97.2%（昨年度後期96.2%）で全学の95.6%と比べて1.5ポイント以上高く、昨年度より1ポイント高い。「授業の進め方が効果的だった（No.9）」は95.5%（昨年度後期94.6%）で微増しており、全学の94.3%と比べても1ポイント以上高い。質問紙の性質上、観察できる差異は小さいが、教え方については全般的に改善傾向にあり、教員の授業対する取り組みは引き続き良好である。
	6.1 (6)	12.2 (12)	34.7 (34)	18.4 (18)	17.3 (17)	7.1 (7)	4.1 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	2.0 (2)	3.1 (3)	3.1 (3)	6.1 (6)	11.2 (11)	11.2 (11)	31.6 (31)	15.3 (15)	16.3 (16)	[環境・設備等] 学習環境や設備については、肯定的評価（A+B）の割合の平均は「人数や部屋の広さは良好か（no.10）」は、96.6%（昨年度後期95.2%）となっており、全学の95.5%より約1ポイント高い。また昨年度と比べると1.5ポイントほど上昇している。「参考書が図書館に揃っているか（No.11）」は95.3%（昨年度後期94.5%）で、全学の93.1%と比べると2ポイント以上高く、昨年度と比べると微増である。いずれも肯定評価は95%を越え、ここ数年の地道な調整が身を結びつつある。
	13.3 (13)	17.3 (17)	38.8 (38)	15.3 (15)	9.2 (9)	3.1 (3)	3.1 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	1.0 (1)	1.0 (1)	3.1 (3)	3.1 (3)	11.2 (11)	13.3 (13)	22.4 (22)	27.6 (27)	17.3 (17)	[環境・設備等] 学習環境や設備については、肯定的評価（A+B）の割合の平均は「人数や部屋の広さは良好か（no.10）」は、96.6%（昨年度後期95.2%）となっており、全学の95.5%より約1ポイント高い。また昨年度と比べると1.5ポイントほど上昇している。「参考書が図書館に揃っているか（No.11）」は95.3%（昨年度後期94.5%）で、全学の93.1%と比べると2ポイント以上高く、昨年度と比べると微増である。いずれも肯定評価は95%を越え、ここ数年の地道な調整が身を結びつつある。
	15.3 (15)	31.6 (31)	22.4 (22)	15.3 (15)	12.2 (12)	1.0 (1)	2.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	1.0 (1)	1.0 (1)	2.0 (2)	4.1 (4)	8.2 (8)	10.2 (10)	16.3 (16)	31.6 (31)	16.3 (16)	9.2 (9)	[環境・設備等] 学習環境や設備については、肯定的評価（A+B）の割合の平均は「人数や部屋の広さは良好か（no.10）」は、96.6%（昨年度後期95.2%）となっており、全学の95.5%より約1ポイント高い。また昨年度と比べると1.5ポイントほど上昇している。「参考書が図書館に揃っているか（No.11）」は95.3%（昨年度後期94.5%）で、全学の93.1%と比べると2ポイント以上高く、昨年度と比べると微増である。いずれも肯定評価は95%を越え、ここ数年の地道な調整が身を結びつつある。
	11.2 (11)	15.3 (15)	35.7 (35)	15.3 (15)	15.3 (15)	4.1 (4)	3.1 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	1.0 (1)	3.1 (3)	9.2 (9)	21.4 (21)	33.7 (33)	23.5 (23)	8.2 (8)	[環境・設備等] 学習環境や設備については、肯定的評価（A+B）の割合の平均は「人数や部屋の広さは良好か（no.10）」は、96.6%（昨年度後期95.2%）となっており、全学の95.5%より約1ポイント高い。また昨年度と比べると1.5ポイントほど上昇している。「参考書が図書館に揃っているか（No.11）」は95.3%（昨年度後期94.5%）で、全学の93.1%と比べると2ポイント以上高く、昨年度と比べると微増である。いずれも肯定評価は95%を越え、ここ数年の地道な調整が身を結びつつある。
	12.2 (12)	19.4 (19)	41.8 (41)	17.3 (17)	7.1 (7)	2.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.0 (0)	1.0 (1)	3.1 (3)	7.1 (7)	20.4 (20)	34.7 (34)	17.3 (17)	12.2 (12)	4.1 (4)	[環境・設備等] 学習環境や設備については、肯定的評価（A+B）の割合の平均は「人数や部屋の広さは良好か（no.10）」は、96.6%（昨年度後期95.2%）となっており、全学の95.5%より約1ポイント高い。また昨年度と比べると1.5ポイントほど上昇している。「参考書が図書館に揃っているか（No.11）」は95.3%（昨年度後期94.5%）で、全学の93.1%と比べると2ポイント以上高く、昨年度と比べると微増である。いずれも肯定評価は95%を越え、ここ数年の地道な調整が身を結びつつある。
	4.1 (4)	11.2 (11)	31.6 (31)	33.7 (33)	12.2 (12)	5.1 (5)	1.0 (1)	1.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	

（ ）は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

個別のデータをみると、一般的な傾向として講義型の科目よりアクティブラーニング型の科目の方が「授業内容の理解」や「効果的な進め方」の面で評価が高くなる傾向がみられる。学科としてアクティブラーニングは重視をしているが、同時に社会科学系の知識を体系的に習得することもまた重要であり、後者の学びの形態について、改善のためにはどのようなアプローチが求められるのか、今後学科として検討する必要がある。

4.今後の方針

全般的に良好な数値であることから、現状の取り組みの継続が望ましいと考える。具体的な取り組みの1つ目としては、授業公開による教員間の手法・情報共有の円滑化をさらに進めていきたい。これまで授業公開はスタディーズごとに行ってきたが、スタディーズを越え、さらに必要な場合は非常勤講師にも公開を依頼し、授業の改善についてオープンにディスカッション出来る環境を整えていきたい。2つ目の取り組みとしては、学生の授業に対するモチベーションを挙げられるように設けた独自の褒賞制度を維持し、学生たちの努力の可視化をさらに進めたい。3つ目の取り組みとしては、授業の履修者数や性質に合わせた時間割と教室の調整を地道に進めていきたい。以上の3点を具体的な今後の取り組み、方針とする。

1.概評

すべての項目について、肯定的評価が94.6～98.6と非常に高く、頭打ちの状態を継続している。96.3を切っているのは質問1のシラバスで授業内容を確認しましたか、のみであり、そのほかの質問は96.4以上である。今後文科省の再課程認定後の新カリキュラムや、厚労省の保育士養成課程の見直しによって順次新しいシラバスが登場するので、このままの充実した授業内容を継続させていきたい。また各教員に対する評価も大変高く、引き続きこの状況を維持するよう心掛けたい。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ ≤100	考察
1	0.0 (0)	1.1 (1)	2.2 (2)	11.0 (10)	11.0 (10)	17.6 (16)	24.2 (22)	19.8 (18)	9.9 (9)	3.3 (3)	[学生] 全体的に肯定的評価が高い結果となっている。授業に積極的に取り組み、課題を行い、到達目標の達成を目指す様子を見ることができる。今後とも学科として引き続き学生の自主性を刺激するような授業展開を心掛けたい。
	3.3 (3)	12.1 (11)	25.3 (23)	25.3 (23)	14.3 (13)	18.7 (17)	1.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	1.1 (1)	1.1 (1)	4.4 (4)	12.1 (11)	13.2 (12)	23.1 (21)	16.5 (15)	24.2 (22)	4.4 (4)	
	4.4 (4)	19.8 (18)	26.4 (24)	23.1 (21)	9.9 (9)	14.3 (13)	2.2 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	4.4 (4)	3.3 (3)	7.7 (7)	14.3 (13)	20.9 (19)	24.2 (22)	16.5 (15)	8.8 (8)	
	8.8 (8)	20.9 (19)	27.5 (25)	16.5 (15)	13.2 (12)	8.8 (8)	3.3 (3)	1.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.0 (0)	1.1 (1)	4.4 (4)	5.5 (5)	15.4 (14)	19.8 (18)	20.9 (19)	20.9 (19)	8.8 (8)	3.3 (3)	
	2.2 (2)	9.9 (9)	23.1 (21)	18.7 (17)	20.9 (19)	15.4 (14)	8.8 (8)	1.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	2.2 (2)	9.9 (9)	7.7 (7)	26.4 (24)	24.2 (22)	22.0 (20)	7.7 (7)	[授業[内容]] 両項目において、高い割合で肯定的評価を得ている。各教員による授業改善の取り組むが成果を上げているといえる。ほぼ天井うち状態ではあるが、引き続きこのレベルを維持できるよう今後もシラバスと授業内容の整合性をこころがけ、学生がより授業内容を理解できるように授業展開をおこないたい。
	8.8 (8)	20.9 (19)	28.6 (26)	24.2 (22)	8.8 (8)	8.8 (8)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	1.1 (1)	0.0 (0)	6.6 (6)	8.8 (8)	9.9 (9)	26.4 (24)	14.3 (13)	24.2 (22)	8.8 (8)	
	7.7 (7)	23.1 (21)	20.9 (19)	25.3 (23)	8.8 (8)	13.2 (12)	0.0 (0)	1.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	0.0 (0)	2.2 (2)	3.3 (3)	7.7 (7)	11.0 (10)	22.0 (20)	15.4 (14)	23.1 (21)	15.4 (14)	[授業[教え方等]] すべての項目において、肯定的評価は高い結果となっている。教員の授業改善に対する意識が高まり、積極的に取り組んでいることがみてとれる。
	15.4 (14)	19.8 (18)	26.4 (24)	18.7 (17)	13.2 (12)	4.4 (4)	2.2 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	1.1 (1)	0.0 (0)	3.3 (3)	7.7 (7)	9.9 (9)	12.1 (11)	25.3 (23)	24.2 (22)	16.5 (15)	
	15.4 (14)	31.9 (29)	22.0 (20)	12.1 (11)	9.9 (9)	8.8 (8)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	0.0 (0)	2.2 (2)	2.2 (2)	8.8 (8)	14.3 (13)	16.5 (15)	17.6 (16)	25.3 (23)	13.2 (12)	
	13.2 (12)	20.9 (19)	27.5 (25)	18.7 (17)	9.9 (9)	8.8 (8)	1.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	1.1 (1)	4.4 (4)	14.3 (13)	25.3 (23)	27.5 (25)	18.7 (17)	8.8 (8)	[環境・設備等] 自由記述欄で教室の狭さや密度、教室の寒さ、木の椅子のささくれにより、ストッキングが破けるなどを訴える学生は多く、今後も環境改善についてはお願いをしていきたい。演習授業などでは、机や椅子を移動させることに関しては教員側も不便さを訴えており、アクティブラーニングの充実を図るうえでもなんとかしたいところである。
	9.9 (9)	29.7 (27)	29.7 (27)	17.6 (16)	8.8 (8)	4.4 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	1.1 (1)	8.8 (8)	15.4 (14)	33.0 (30)	20.9 (19)	17.6 (16)	3.3 (3)	
	3.3 (3)	18.7 (17)	33.0 (30)	26.4 (24)	9.9 (9)	8.8 (8)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

（ ）は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

コースによって履修すべき科目がほぼ決まっているため、以前は学科登録が多く学生が自主的に科目を履修するという姿勢が薄かった。ここ最近はコースによる免許の選択肢が複雑になったので、ほぼすべての科目を学生が登録するという指導している。間違いや修正も発生するが学生自身がシラバスを確認して、自分に必要な科目を取得するという姿勢が定着してきた。教員養成学科という特性もあり、教員の授業改善に対する意識や意欲は高い。

4.今後の方針

今後もこれまで同様、学生が主体的、積極的にとりくめるような授業展開ができるよう学科全体として取り組んでいきたい。引き続き、授業公開および協議会をひらき、授業の質的改善を図る機会を設けていく予定である。

1.概評

全般的に評価の上昇が確認された。全学との比較でみると、ほとんどの項目において、学科科目の評価の方が高く、とくに学生の授業の取り組み評価は高い。学生の取り組み意欲に対応すべく、さらなる授業内容の向上に努めていきたい。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。

（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ ≦100	考察
1	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.8 (1)	7.4 (9)	17.4 (21)	24.8 (30)	27.3 (33)	14.0 (17)	8.3 (10)	[学生] A+B の評価率(%)は、H30後期／H29 後期において設問 1 (97.2/96.8)、設問2(97.9/97.2)、設問3(97.7/97.1)、設問4(96.2/94.5)すべてにおいて上昇している。これより学生への授業内容の周知等に関しては、学科で行うガイダンス、初回授業での説明等により、概ね良く伝達されているものと考える。授業外学習に関しては、各授業内で課題量を調整するなどし、より一層の学習時間の確保に努めたい。
	7.4 (9)	14.9 (18)	32.2 (39)	24.0 (29)	17.4 (21)	3.3 (4)	0.8 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	0.0 (0)	0.8 (1)	2.5 (3)	13.2 (16)	10.7 (13)	21.5 (26)	24.0 (29)	19.8 (24)	7.4 (9)	
	6.6 (8)	19.8 (24)	28.1 (34)	20.7 (25)	11.6 (14)	9.1 (11)	4.1 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	7.4 (9)	14.0 (17)	19.8 (24)	26.4 (32)	19.0 (23)	13.2 (16)	
	12.4 (15)	19.8 (24)	33.1 (40)	17.4 (21)	14.9 (18)	1.7 (2)	0.8 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.0 (0)	0.0 (0)	1.7 (2)	13.2 (16)	16.5 (20)	15.7 (19)	22.3 (27)	21.5 (26)	6.6 (8)	2.5 (3)	
	2.5 (3)	8.3 (10)	20.7 (25)	25.6 (31)	20.7 (25)	14.0 (17)	8.3 (10)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.0 (0)	0.8 (1)	3.3 (4)	3.3 (4)	11.6 (14)	20.7 (25)	27.3 (33)	24.8 (30)	8.3 (10)	[授業[内容]] A+B の評価率(%)は、H30後期／H29後期において設問 5(98.5/96.7)、設問6(96.0/93.6)といずれも2%前後上昇した。これより昨年度同様、各教員にはなお一層の授業内容の明確化、伝達方法の工夫をお願いし、更なる授業内容の向上に努めたい。
	9.1 (11)	22.3 (27)	27.3 (33)	24.8 (30)	11.6 (14)	2.5 (3)	1.7 (2)	0.8 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	0.0 (0)	4.1 (5)	9.9 (12)	9.1 (11)	15.7 (19)	14.0 (17)	26.4 (32)	13.2 (16)	7.4 (9)	
	9.9 (12)	9.1 (11)	28.1 (34)	17.4 (21)	23.1 (28)	7.4 (9)	4.1 (5)	0.0 (0)	0.8 (1)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	0.8 (1)	5.0 (6)	5.0 (6)	9.1 (11)	11.6 (14)	14.9 (18)	16.5 (20)	21.5 (26)	15.7 (19)	[授業[教え方等]] A+B の評価率(%)は、H30後期／H29後期において設問 7(95.5/94.7)、設問8(96.6/95.3)、設問9(94.2/93.2)と各設問ともに微増となった。これより教員の努力はもちろん、継続的な授業公開等の成果が表れているものと考え、引き続きさらなる授業運営の工夫に努めたい。
	15.7 (19)	20.7 (25)	21.5 (26)	16.5 (20)	14.0 (17)	9.1 (11)	2.5 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	0.0 (0)	4.1 (5)	3.3 (4)	10.7 (13)	8.3 (10)	14.9 (18)	19.0 (23)	24.8 (30)	14.9 (18)	
	13.2 (16)	26.4 (32)	23.1 (28)	17.4 (21)	8.3 (10)	9.1 (11)	1.7 (2)	0.0 (0)	0.8 (1)	0.0 (0)	
9	0.8 (1)	0.8 (1)	3.3 (4)	5.8 (7)	7.4 (9)	10.7 (13)	16.5 (20)	24.0 (29)	18.2 (22)	12.4 (15)	
	12.4 (15)	23.1 (28)	24.0 (29)	19.0 (23)	12.4 (15)	7.4 (9)	1.7 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.8 (1)	1.7 (2)	4.1 (5)	10.7 (13)	16.5 (20)	24.8 (30)	25.6 (31)	15.7 (19)	[環境・設備等] A+B の評価率(%)は、H30後期／H29後期において設問 10(96.5/95.4)、設問11(92.3/91.0)といずれも微増となった。設問10の学習環境に関しては、教室に対する学生数の過密状況が具体的なコメントとしても記載されており、開設科目の曜講調整ならびに開設コマ数の調整などにより、状況改善に努めたい。
	14.9 (18)	32.2 (39)	23.1 (28)	15.7 (19)	13.2 (16)	0.8 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.0 (0)	0.8 (1)	6.6 (8)	14.9 (18)	17.4 (21)	28.1 (34)	20.7 (25)	7.4 (9)	4.1 (5)	
	5.0 (6)	17.4 (21)	25.6 (31)	27.3 (33)	15.7 (19)	7.4 (9)	1.7 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

本学科では、演習科目が多いことが特徴であるが、少人数クラスであるため、演習科目の評価は相対的に高い。教員と学生の距離が近く、適切なアドバイスを受けたことを評価するコメントも多々みられる。また、講義科目においても、授業内容が社会や実践にどのようにつながるかなどの具体例をあげた話があると、学生も興味を持ち、授業に対する評価も高くなっている。一方、理数系科目を苦手に行っている学生が少なくないなかで、学科カリキュラムにおいては最低限の理数系科目の知識を必要とするものが少なからず存在しており、これら関連科目に関する評価が、他の演習科目などに比べ傾向として低評価となっている。この傾向自体は例年通りであるものの、一部の科目において特に評価が低い科目が散見されたため、これらに関しては何らかの対策を行っていききたい。しかし、このような授業であっても、教員の授業の工夫などにより、「わかりやすい」「おもしろい」等の評価をしているコメントも散見され、そのような授業を公開することにより、教員全体として、あるいは関連科目の教員同士、指導方法等に関して議論する場を持ち、よりわかりやすい授業運営のための工夫を行っていききたい。学生によって基本理解度が異なるため、レベルをどこに合わせるのかが課題である。また、複数教員で行う概論系の授業に関しては、範囲が広すぎる、統一性がないなどのコメントがみられ、これらも教員間の話し合いによってまとまりを持たせることも課題である。

4.今後の方針

昨年度に引き続き、学科カリキュラムの中心である演習科目と、それらを補足し、より発展させるために必要な講義科目の学習バランスに関して、偏りが生じないようにクラスアドバイザー等による履修指導を徹底したい。また授業時間外での自宅学習の有用性について説明し、講義科目の習熟度を向上させる取り組みを徹底したい。来年度より新カリキュラムを導入する。基本的には新入生からが対象となるが、カリキュラムポリシーやカリキュラムツリーを通して、学びの体系をガイダンス等で周知し、何のためにこの授業を学ぶのか、それを主体的に学ぶ姿勢を身に付けられるよう、新しい授業の運営方法、教え方等を環境の教員全体で学び、よりよい授業展開をしてきたい。

1.概評

例年であるが、後期になると全体的に評価が向上する。今年度も例年通り前期より評価が上昇した。後期カリキュラムは、前期から順次性・体系的な学びへと転換するため、低学年においても基礎的な実験実習が導入されている。よって、前期科目の知識をベースとしてさらに深い学びが得られたようである。シラバスの確認や課題レポート作成を通して、授業外学習についても積極的に取り組んでいる傾向にあった。また、高学年においては、国家試験対策や臨地実習などを通して、将来を見据えて自分自身の考えをまとめる機会が多く、積極的な授業への参加ができたものと考えられる。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ ≤100	考察
1	0.0 (0)	1.8 (1)	7.3 (4)	25.5 (14)	29.1 (16)	23.6 (13)	7.3 (4)	3.6 (2)	1.8 (1)	0.0 (0)	[学生] 学期初めの学科教務ガイダンスにおいて、履修登録前に必ずシラバスを確認してから登録するように指導している。そのため、比較的 学生はシラバスを確認する習慣が定着してきたと思われる。また、 管理栄養学科のカリキュラムは、国家試験受験のための科目も多い ことから、授業への参加度は比較的高く、授業外学習においても、 大半の学生がレポート、課題等を通してしっかりと行っているよう である。今後も、シラバスの確認及び授業外学習の重要性について 指導していきたい。
	1.8 (1)	0.0 (0)	3.6 (2)	18.2 (10)	29.1 (16)	38.2 (21)	9.1 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	0.0 (0)	3.6 (2)	9.1 (5)	25.5 (14)	29.1 (16)	14.5 (8)	18.2 (10)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	0.0 (0)	18.2 (10)	12.7 (7)	36.4 (20)	27.3 (15)	5.5 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	1.8 (1)	3.6 (2)	21.8 (12)	23.6 (13)	18.2 (10)	18.2 (10)	7.3 (4)	5.5 (3)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	5.5 (3)	7.3 (4)	20.0 (11)	32.7 (18)	29.1 (16)	5.5 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.0 (0)	5.5 (3)	12.7 (7)	34.5 (19)	20.0 (11)	18.2 (10)	5.5 (3)	3.6 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	0.0 (0)	3.6 (2)	9.1 (5)	16.4 (9)	36.4 (20)	27.3 (15)	7.3 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.0 (0)	7.3 (4)	9.1 (5)	20.0 (11)	30.9 (17)	16.4 (9)	10.9 (6)	5.5 (3)	0.0 (0)	[授業[内容]] 授業内容については、管理栄養士国家試験ガイドラインに準じたカリ キュラム編成としており、シラバスにも詳細を記載をしている。 よって、授業もそれに則った内容展開であるため、学生たちの満足 度も高いようである。しかし、科目によっては苦手意識が強いもの もあり、理解度にばらつきが見られた。各授業に対して、予習と復 習の授業外時間をより多く確保し、理解を深めるように指導してい きたい。
	0.0 (0)	5.5 (3)	10.9 (6)	21.8 (12)	29.1 (16)	25.5 (14)	3.6 (2)	3.6 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	3.6 (2)	9.1 (5)	12.7 (7)	16.4 (9)	30.9 (17)	23.6 (13)	1.8 (1)	1.8 (1)	0.0 (0)	[授業[教え方等]] 授業の説明や進め方は例年通り比較的高い評価であった。視聴覚施 設を十分に利用することで、わかりやすい説明や実験・実習などの 具体的な方法、事例等による効果的な授業展開ができていたものと 考える。しかし、一部の科目において、進め方や配布資料などに ついて満足していない学生もいるようである。この点については、学 科教員全体に向けても改善の方策を検討していく必要がある。ま た、知識を植え付けるための一方向になりがちな授業展開にならな いよう、学生の理解度が上がるような取り組み（小テストやリアク ションペーパー）などを推奨していく。
	0.0 (0)	1.8 (1)	5.5 (3)	20.0 (11)	36.4 (20)	23.6 (13)	12.7 (7)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	1.8 (1)	7.3 (4)	7.3 (4)	9.1 (5)	32.7 (18)	21.8 (12)	7.3 (4)	12.7 (7)	0.0 (0)	
	1.8 (1)	12.7 (7)	10.9 (6)	29.1 (16)	21.8 (12)	18.2 (10)	5.5 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	0.0 (0)	3.6 (2)	14.5 (8)	5.5 (3)	32.7 (18)	20.0 (11)	16.4 (9)	5.5 (3)	1.8 (1)	
	1.8 (1)	9.1 (5)	18.2 (10)	29.1 (16)	18.2 (10)	20.0 (11)	3.6 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	0.0 (0)	12.7 (7)	10.9 (6)	10.9 (6)	29.1 (16)	18.2 (10)	10.9 (6)	7.3 (4)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	7.3 (4)	14.5 (8)	27.3 (15)	27.3 (15)	20.0 (11)	3.6 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	5.5 (3)	29.1 (16)	27.3 (15)	21.8 (12)	12.7 (7)	1.8 (1)	1.8 (1)	[環境・設備等] 例年のことであるが、教室に対する不満（狭さやスクリーンの位置 等）が多く挙がっている。特に机や椅子のがたつきについて、今年 度は記載が目立った。2号館の外観や出入口、廊下等の整備は進ん でいるが、実際に授業を受けている学生側の目線での改修は進んで いないのが現状である。学生たちが安全に実験・実習を行える環境 の整備を引き続きお願いしたい。また、視聴覚設備設置については S教室が優先されているが、調理実習室・実験室などのL教室につい ても設置していただきたい。
	1.8 (1)	7.3 (4)	12.7 (7)	36.4 (20)	29.1 (16)	10.9 (6)	1.8 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.0 (0)	3.6 (2)	21.8 (12)	34.5 (19)	20.0 (11)	12.7 (7)	5.5 (3)	1.8 (1)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	3.6 (2)	7.3 (4)	23.6 (13)	30.9 (17)	27.3 (15)	7.3 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

管理栄養学科のカリキュラム編成は、基礎科目から応用科目へと体系的・順次性をもって展開していくため、まず、低学年時の基礎科目（生物・化学）の基礎学の向上が重要である。化学については苦手意識を抱えた学生が多くいるため、1年前期に化学、生物学の講義で得た知識を、1年後期の化学実験に繋げ、2年時以降の実験や応用科目にスムーズに発展できるよう、基礎力向上の組みを強化していく必要がある。

全学年を通して、前期よりも後期になると、学習習慣も身につく傾向があるため、今後も継続していくよう授業内においてもシラバスの確認等を徹底していく。

グローバルな視点をもった管理栄養士を育て、さらに女性が活躍するために卒業後のキャリアデザインを考える機会を増やす目的で、プロジェクト活動や官庁等の見学会なども実施した。また、春のアメリカ栄養士研修に参加する学生も一定数おり、アメリカと日本との栄養事情の違いなどをグローバルな視野からも学び、学生自信の今後の進路にも大きく影響しているようである。

4.今後の方針

管理栄養学科では、ほとんどの学生が管理栄養士国家試験合格を目指し学修している。そのため学生の勉学への意欲は高い。学習意欲の向上を目指し、授業だけでなく、授業外学習の充実を図る。また、資格関連科目のみならず、健康美プロジェクトなど大学内でのプロジェクト活動にも積極的に参加する学生も増えてきた。今後もプロジェクト活動への参加も推進していく。次年度へ向けては、TUJとのコラボ企画として、健康美プロジェクトH&Bメニュープロジェクトチームが世界食堂に参加をする。さらに、ONETABLE × JAXA企画の「BOSAI SPACE FOOD PROJECT」のプロジェクトパートナーとして採択され、SDGsや防災、栄養に関する教育啓蒙活動に向けた取組みが開始する。グローバルな視点での管理栄養士養成に向けて、取り組む予定である。

さらに、女性が活躍できる社会への実現を目指し、キャリア支援活動にも力を入れ、大学病院、国立病院機構等の病院栄養士への挑戦、公務員養成も推進し、栄養士の勉強会への参加や官公庁への見学ツアーなども企画を進める。

1.概評

全体としては例年と同様の傾向であった。すなわち、学生の意欲は高いが、理解度は若干低い。ただし、理解度が低いのは、主に低学年で履修する基礎的な講義科目が多く、「実験・実習・演習科目」や上級学年で履修する「領域科目」では評価が高い。上級学年で履修する科目の理解を深めるためにも、基礎的な講義科目に対する学生の学習意欲が向上するような施策を引き続き検討したい。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。

（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ ≦100	考察
1	2.1 (1)	4.2 (2)	14.6 (7)	16.7 (8)	25.0 (12)	14.6 (7)	10.4 (5)	2.1 (1)	10.4 (5)	0.0 (0)	[学生] 今年度も昨年度と同様、「シラバスでの授業内容の確認」「授業への積極的な取り組み」「授業外での学習」「到達目標の達成」、いずれにおいても高い肯定率であり、健康デザイン学科の学生は、能動的に授業に取り組んでいたことが示された。栄養士や健康運動指導士、フードスペシャリスト、教員免許といった資格取得という明確な目標がある授業科目に対して、一定の達成感が得られたものと考えられる。一方で、実験実習科目や演習科目と比べて講義科目での評価が低く、講義科目でも学生が能動的に取り組めるとような施策（アクティブラーニングの活用など）を検討していく必要がある。
	0.0 (0)	10.4 (5)	4.2 (2)	14.6 (7)	20.8 (10)	25.0 (12)	14.6 (7)	10.4 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	2.1 (1)	2.1 (1)	12.5 (6)	12.5 (6)	16.7 (8)	20.8 (10)	16.7 (8)	6.3 (3)	6.3 (3)	4.2 (2)	
	4.2 (2)	6.3 (3)	10.4 (5)	14.6 (7)	12.5 (6)	29.2 (14)	12.5 (6)	8.3 (4)	2.1 (1)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	2.1 (1)	10.4 (5)	14.6 (7)	14.6 (7)	25.0 (12)	8.3 (4)	12.5 (6)	8.3 (4)	4.2 (2)	
	4.2 (2)	8.3 (4)	12.5 (6)	10.4 (5)	22.9 (11)	18.8 (9)	18.8 (9)	4.2 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	2.1 (1)	10.4 (5)	14.6 (7)	12.5 (6)	31.3 (15)	10.4 (5)	8.3 (4)	4.2 (2)	2.1 (1)	4.2 (2)	
	6.3 (3)	0.0 (0)	4.2 (2)	10.4 (5)	14.6 (7)	33.3 (16)	16.7 (8)	10.4 (5)	4.2 (2)	0.0 (0)	
5	4.2 (2)	2.1 (1)	6.3 (3)	18.8 (9)	16.7 (8)	27.1 (13)	8.3 (4)	8.3 (4)	2.1 (1)	6.3 (3)	[授業[内容]] 今年度も昨年度と同様「授業内容の理解」の項目で、評価が低い傾向がみられた。基礎科目の講義での理解度が低かった一方で、実験・実習などの演習科目では高い評価が得られた。
	6.3 (3)	2.1 (1)	6.3 (3)	16.7 (8)	22.9 (11)	18.8 (9)	14.6 (7)	8.3 (4)	4.2 (2)	0.0 (0)	
6	4.2 (2)	4.2 (2)	14.6 (7)	14.6 (7)	14.6 (7)	22.9 (11)	10.4 (5)	4.2 (2)	2.1 (1)	8.3 (4)	
	8.3 (4)	2.1 (1)	4.2 (2)	10.4 (5)	25.0 (12)	25.0 (12)	16.7 (8)	6.3 (3)	2.1 (1)	0.0 (0)	
7	2.1 (1)	6.3 (3)	10.4 (5)	10.4 (5)	14.6 (7)	16.7 (8)	14.6 (7)	12.5 (6)	6.3 (3)	6.3 (3)	[授業[教え方等]] 今年度も昨年度と同様「教員の説明の明確さ」「教員の話の聞き取りやすさ」「授業の進め方」の項目で、評価が低い傾向がみられた。特に基礎的な「化学」の知識を必要とするような理系科目の評価が低かった。これは、健康デザイン学科では高校時代に化学を履修してこなかった学生や文系で入学する学生が多いため、つまずいてしまっているものと考えられる。一方で、上級学年で多く開講される「健康デザイン領域科目」の評価は概ね高く、学年が進み専門性が高まってくることで、基礎的な知識への理解も深まっているものと考えられる。専門的な学びをより深めていくためにも、基礎的な科目の講義方法等、検討していく必要がある。
	6.3 (3)	6.3 (3)	14.6 (7)	16.7 (8)	27.1 (13)	14.6 (7)	10.4 (5)	4.2 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	4.2 (2)	12.5 (6)	12.5 (6)	12.5 (6)	20.8 (10)	10.4 (5)	14.6 (7)	4.2 (2)	8.3 (4)	
	8.3 (4)	4.2 (2)	16.7 (8)	14.6 (7)	27.1 (13)	14.6 (7)	4.2 (2)	10.4 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	4.2 (2)	4.2 (2)	10.4 (5)	16.7 (8)	12.5 (6)	16.7 (8)	14.6 (7)	8.3 (4)	4.2 (2)	8.3 (4)	
	8.3 (4)	4.2 (2)	8.3 (4)	16.7 (8)	31.3 (15)	12.5 (6)	8.3 (4)	8.3 (4)	2.1 (1)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	4.2 (2)	12.5 (6)	18.8 (9)	6.3 (3)	12.5 (6)	18.8 (9)	12.5 (6)	10.4 (5)	4.2 (2)	[環境・設備等] 昨年度と同様、学習環境の評価は高かった。これは、栄養士関連科目は原則40名以内で実施しているからであると考えられる。80名で開講している基礎科目についても評価は高かった。また、図書館の参考書についての評価が若干低かったが、これは、教員から参考書を紹介するなどしていけば改善することが期待される。
	6.3 (3)	10.4 (5)	12.5 (6)	20.8 (10)	14.6 (7)	14.6 (7)	14.6 (7)	2.1 (1)	4.2 (2)	0.0 (0)	
11	2.1 (1)	6.3 (3)	16.7 (8)	12.5 (6)	14.6 (7)	29.2 (14)	14.6 (7)	0.0 (0)	2.1 (1)	2.1 (1)	
	2.1 (1)	2.1 (1)	4.2 (2)	16.7 (8)	20.8 (10)	20.8 (10)	14.6 (7)	14.6 (7)	4.2 (2)	0.0 (0)	

（ ）は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

健康デザイン学科は、高校時代に「化学」を履修していない学生や文系の学生も多い。そのため、低学年で開講されている「化学」や「化学の知識を必要とする基礎的な科目」について、学生の理解度や到達度が低い。さらに、健康デザイン学科の現在のカリキュラムは、低学年の必修科目が非常に多く、学生教員いずれにおいても負担感が大きい。これも、低学年の科目における評価の低さに繋がっている可能性もある。一方で、主に高学年で開講されている「健康デザイン領域科目」をはじめとする専門性の高い科目については、学生の理解度や到達度が高い。「学年が進むに従い、基礎的な知識の理解が進んだので安心である」考えられる一方で、「低学年での基礎的な知識の理解が深まれば、専門性の高い科目の理解がさらに深まる」とも考えられる。

4.今後の方針

学科で開設している科目の特性を踏まえた上で、学生の授業への能動的・積極的な参加と、到達目標の達成度の向上を図るような取り組みが必要である。具体的には、①基礎科目（特に講義科目）への学生の取り組み、意欲、到達度を把握していく、②それに基づく指導法の改善について科会にて議論・情報共有をする、③健康デザイン領域科目のさらなる充実と、それに必要な機器備品の整備、④カリキュラムツリーを利用した、カリキュラムの再検討、⑤低学年の必修科目が多いため、学年配当や科目の統合の検討、を予定している。

1.概評
開設2年目の新しい学科であり、カリキュラム、授業内容などまだ流動的な部分もあるが、今年度後期の評価から、授業は適切に運営され、学生自身も積極的に授業に参加し、学習効果も十分得られている様子がうかがえた。完成年度まで常に反省と改善を繰り返し、より良い授業運営を目指す。

2.各質問の評価とその考察
各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ ≦100	考察
1	0.0 (0)	3.7 (1)	3.7 (1)	14.8 (4)	25.9 (7)	25.9 (7)	18.5 (5)	3.7 (1)	3.7 (1)	0.0 (0)	【学生】 学生は自分自身について、授業準備（授業内容の確認、肯定率93.2%）、授業参加（授業への積極的な取り組み97.7%、および学習96.7%）ともに肯定的評価をしており、積極的に取り組んだ様子がうかがえた。その結果として目標達成についても肯定率93.7%と多くの学生が目標を達成できたと評価していた。昨年度の結果と比較すると、各項目ともに2ポイント程度上昇していた。この要因を探るため、評価を開設学年ごとに確認したところ、1期生は、昨年度より今年度で評価が向上していたこと、また、昨年度1年生と今年度1年生では、評価がほぼ変わらなかったことから、入学年度に限らず、1年次学生は大学への授業に慣れておらず、評価がやや厳しいことが明らかとなった。完成年度までの変化を注視したい。
	0.0 (0)	3.7 (1)	14.8 (4)	22.2 (6)	25.9 (7)	22.2 (6)	7.4 (2)	3.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	11.1 (3)	14.8 (4)	33.3 (9)	18.5 (5)	11.1 (3)	11.1 (3)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	11.1 (3)	11.1 (3)	18.5 (5)	29.6 (8)	25.9 (7)	3.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	3.7 (1)	3.7 (1)	14.8 (4)	14.8 (4)	22.2 (6)	25.9 (7)	14.8 (4)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	18.5 (5)	25.9 (7)	18.5 (5)	18.5 (5)	14.8 (4)	3.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.0 (0)	3.7 (1)	11.1 (3)	22.2 (6)	18.5 (5)	29.6 (8)	11.1 (3)	3.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	3.7 (1)	3.7 (1)	14.8 (4)	18.5 (5)	51.9 (14)	7.4 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.0 (0)	7.4 (2)	11.1 (3)	22.2 (6)	25.9 (7)	7.4 (2)	11.1 (3)	14.8 (4)	0.0 (0)	【授業[内容] 授業がシラバス通り進んでいることについては高く評価（肯定率95.7%）されたが、内容の理解については肯定率が90%を下回り、学習に取り組まないと理解できない（負荷がかかっている）状況が確認できた。経年変化をみると、肯定率のポイントは向上しており、特に1年次開設科目で評価がやや高い傾向が認められた。1年次開設科目は授業が2巡目になることから、内容的に落ち着いてきたことがうかがえた。2年次開設科目は、学科として初めて開講される授業であり、その点やや評価が厳しくなっていると予想されるが、2年次学生の評価も85%以上の肯定率であることから、問題は無い。
	0.0 (0)	18.5 (5)	11.1 (3)	14.8 (4)	18.5 (5)	25.9 (7)	7.4 (2)	3.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	3.7 (1)	0.0 (0)	22.2 (6)	11.1 (3)	14.8 (4)	18.5 (5)	18.5 (5)	7.4 (2)	3.7 (1)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	3.7 (1)	18.5 (5)	22.2 (6)	29.6 (8)	11.1 (3)	11.1 (3)	3.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	0.0 (0)	25.9 (7)	7.4 (2)	25.9 (7)	11.1 (3)	3.7 (1)	14.8 (4)	11.1 (3)	0.0 (0)	【授業[教え方等] 授業(教え方)について、説明のわかりやすさには授業によるばらつきがみられた。大教室ではマイク設備もあり、音響については問題ないようであったが、板書については自由記述でいくつか指摘事項があったことから、学科での情報共有、大学への改善要望等、対応を検討したい。前年度と比較し、いずれも評価は向上しており、今後完成年度までの変化を注視する。
	0.0 (0)	14.8 (4)	18.5 (5)	14.8 (4)	33.3 (9)	11.1 (3)	3.7 (1)	3.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	0.0 (0)	18.5 (5)	18.5 (5)	14.8 (4)	18.5 (5)	0.0 (0)	14.8 (4)	11.1 (3)	3.7 (1)	
	3.7 (1)	14.8 (4)	18.5 (5)	11.1 (3)	29.6 (8)	18.5 (5)	0.0 (0)	3.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	7.4 (2)	14.8 (4)	11.1 (3)	25.9 (7)	14.8 (4)	7.4 (2)	14.8 (4)	3.7 (1)	0.0 (0)	
	3.7 (1)	0.0 (0)	25.9 (7)	14.8 (4)	33.3 (9)	18.5 (5)	0.0 (0)	3.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	11.1 (3)	7.4 (2)	29.6 (8)	22.2 (6)	14.8 (4)	14.8 (4)	0.0 (0)	【環境・設備等】 本学科の授業は9号館で実施されることが多いため、教室の環境についての評価は高かった。関係図書についても特に問題は認められなかった。しかし、今後在学生の増加、授業開設科目の増加により、他館の使用も多くなるため、設備の評価の下降が予想される。建物が古くても、快適な環境を提供することはできるはずであり、学生の要望、声に耳を傾ける努力を続けたい。
	7.4 (2)	11.1 (3)	25.9 (7)	25.9 (7)	25.9 (7)	0.0 (0)	3.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.0 (0)	7.4 (2)	18.5 (5)	22.2 (6)	22.2 (6)	14.8 (4)	7.4 (2)	3.7 (1)	3.7 (1)	
	3.7 (1)	7.4 (2)	7.4 (2)	18.5 (5)	40.7 (11)	18.5 (5)	3.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

（ ）は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

食安全マネジメント学科は、学科開設2年目が終了したところである。学生は、新しい分野に希望をもって入学してきているため、授業に対する要望は高い。一方で、食の安全がサイエンスによって支えられていることの理解が薄く、1年次に設定されている理系基礎科目を負担に感じる学生が多くいる。しかし、学習意欲が高く、各自が積極的に学習に取り組むことで克服できている様子がうかがえた。授業（教え方）については、肯定率が90%に達しない点もあったが、カリキュラム運営、授業運営は概ね良好と考えられた。開設1年目の科目評価が低いのではないかと思い、開設年次ごとに評価を確認したが、必ずしも初めての授業の評価が低いとも限らないこと、1期生の評価が厳しいわけでもないことなどが明らかとなった。また、理系と文系の授業で比較しても、評価に明確な差はなく、どちらかといえば教授法、とくにパワーポイントの利用やその資料を配布するかどうかといった、わかりやすさの影響が大きいように見受けられた。しかし、それも、最終的な成績評価と必ずしも一致していないことから、学生に迎合することなく、つねに少し高い目標を設定する必要があると考える。完成年度までの変化を注視したい。

4.今後の方針

完成年度まではカリキュラムの大きな変更はできないことから、現在のカリキュラムをポリシーに従い、きちんと運営していくことが何より大切である。教員は授業改善に努め、学生の理解向上へつなげる努力を怠らないこと、FD改善アンケート結果の学生の声に耳を傾けるが、安易な迎合はせず、常に目標を高く掲げることなど、学科で共通理解をしたい。現在本学科では、セメスター開始前に、各授業の内容について情報共有を行っており、よい刺激となっている。今後も継続して授業の充実 に努めていく。

1.概評

評価対象授業は103科目、有効回答数は2,741であった。2018年度入学生より導入した新カリキュラムにより、英語の科目が4技能に応じて細分化されたこと、後期は2年生がボストンから帰国し専門科目が始まったことから、従来よりも科目数は微増となった。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ ≤100	考察
1	0.0 (0)	0.0 (0)	3.9 (4)	7.8 (8)	12.6 (13)	25.2 (26)	16.5 (17)	15.5 (16)	13.6 (14)	4.9 (5)	【学生】 ①シラバスの閲覧、②講義の取り組み姿勢、③授業外学習、④講義到達目標、のいずれにおいても肯定的評価が9割を超え、①以外においては95～96%の肯定率であった。前年同期比でも横ばいか微増となっており、授業に対するコミットメントは定着したようである。 シラバスの閲覧が91%程度にとどまっていることについては、習慣づけの問題もあるが、現場では学生の習熟度に合わせた進度調整が発生するため、学生にとっては毎回閲覧するよりも、授業内で教員のガイダンスに従うほうが現実的という側面も否めない（シラバス改訂は可能だが承認までのタイムラグが生じる）。
	9.7 (10)	11.7 (12)	27.2 (28)	26.2 (27)	19.4 (20)	5.8 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	0.0 (0)	1.0 (1)	2.9 (3)	4.9 (5)	29.1 (30)	18.4 (19)	22.3 (23)	13.6 (14)	7.8 (8)	
	9.7 (10)	13.6 (14)	25.2 (26)	22.3 (23)	26.2 (27)	1.9 (2)	1.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	1.0 (1)	0.0 (0)	1.9 (2)	1.0 (1)	6.8 (7)	17.5 (18)	20.4 (21)	21.4 (22)	20.4 (21)	9.7 (10)	
	9.7 (10)	25.2 (26)	24.3 (25)	24.3 (25)	13.6 (14)	1.0 (1)	1.0 (1)	1.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.0 (0)	2.9 (3)	3.9 (4)	6.8 (7)	10.7 (11)	26.2 (27)	16.5 (17)	14.6 (15)	14.6 (15)	3.9 (4)	
	4.9 (5)	13.6 (14)	16.5 (17)	22.3 (23)	24.3 (25)	11.7 (12)	4.9 (5)	1.9 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	1.0 (1)	4.9 (5)	13.6 (14)	28.2 (29)	24.3 (25)	14.6 (15)	13.6 (14)	【授業[内容]】 ⑤シラバス記載内容の実質化は98%の肯定度合いと高い評価を得た。これは「質保証」の観点からシラバス記載への教務部委員会からのガイダンスが充実・徹底していることを示唆している。⑥授業内容の理解も96%と過去最高値となっている。シラバス記載と学生理解度の連動が窺え、今後も継続したい。
	11.7 (12)	18.4 (19)	26.2 (27)	28.2 (29)	8.7 (9)	6.8 (7)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	0.0 (0)	2.9 (3)	2.9 (3)	3.9 (4)	14.6 (15)	25.2 (26)	25.2 (26)	15.5 (16)	9.7 (10)	
	9.7 (10)	18.4 (19)	29.1 (30)	26.2 (27)	9.7 (10)	5.8 (6)	1.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	1.0 (1)	1.0 (1)	5.8 (6)	2.9 (3)	9.7 (10)	17.5 (18)	25.2 (26)	20.4 (21)	16.5 (17)	【授業[教え方等]】 ⑦教員の説明、⑧聞き取りやすさ、⑨講義の進め方は、すべての項目において96%超となっており、前年同期比でも横ばいである。27年度同期比では2～3ポイント増となっており、中期的には、新カリキュラムやトラック制の導入を機にコーディネーターの役割が高まり、教員間での到達目標やルーブリックの導入など、結果としてFD効果があったものと推測される。
	15.5 (16)	25.2 (26)	27.2 (28)	16.5 (17)	7.8 (8)	6.8 (7)	1.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	1.0 (1)	0.0 (0)	3.9 (4)	3.9 (4)	5.8 (6)	19.4 (20)	29.1 (30)	18.4 (19)	18.4 (19)	
	20.4 (21)	20.4 (21)	28.2 (29)	19.4 (20)	6.8 (7)	4.9 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	1.0 (1)	0.0 (0)	4.9 (5)	1.9 (2)	13.6 (14)	19.4 (20)	24.3 (25)	17.5 (18)	17.5 (18)	
	16.5 (17)	22.3 (23)	28.2 (29)	21.4 (22)	5.8 (6)	4.9 (5)	1.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	1.9 (2)	2.9 (3)	1.0 (1)	16.5 (17)	25.2 (26)	18.4 (19)	15.5 (16)	18.4 (19)	【環境・設備等】 全体的に肯定的評価が高い中、学習環境への評価は若干低い。⑩学習環境（人数、部屋の広さ等）、⑪図書館に参考書等のうち、特に⑩については2.7ポイント減と前年同期に比してやや顕著である。 自由記述欄を見てみると、寒い、といった季節事由が目立つが、ほかには広すぎる、狭すぎるなど受講者数とのバランスに関するものもあり、教室の需給バランスの問題は全学的な課題であろう。
	21.4 (22)	25.2 (26)	35.0 (36)	15.5 (16)	2.9 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.0 (0)	4.9 (5)	5.8 (6)	8.7 (9)	26.2 (27)	18.4 (19)	16.5 (17)	10.7 (11)	8.7 (9)	
	11.7 (12)	23.3 (24)	29.1 (30)	21.4 (22)	11.7 (12)	1.9 (2)	0.0 (0)	1.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	

（ ）は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

特に設定していない。

4.今後の方針

平成30年度入学生から新カリキュラムに移行したので、今後4年間は、カリキュラムツリーとの関連で到達目標の成果を授業報告書も含め注視していきたい。

1.概評

会計ファイナンス学科は新設学科であるため経年変化の分析は行えず、前期との比較しかできないが、今回のアンケート結果は前期に引き続き、概ね肯定的であったと捉えている。ただし、前期より改善したものの、シラバスを確認していない学生がやや多いと思われる。また、特に授業（内容）および授業（教え方等）において科目間でのばらつきがやや多い傾向にある。今後は科目間のばらつきを減らすとともに、より一層A評価の割合を高めていく。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ ≤100	考察
1	0.0 (0)	0.0 (0)	3.0 (1)	9.1 (3)	6.1 (2)	36.4 (12)	18.2 (6)	21.2 (7)	6.1 (2)	0.0 (0)	[学生] 前期に比べて大きく改善しているものの、問1に対する肯定率が、他の質問に対するものよりやや低めである。したがって、シラバスを確認していない学生がまだ多いと思われる。特に、4月の新入生オリエンテーション（教務ガイダンス）や合同ホームルームの時間に、シラバスを確認するように指導することを徹底する。 また、前期は問4に対する肯定的な評価がやや低めであったが、後期には改善が見られた。これは、シラバスを確認する学生が前期に比べて増えたことに関連しているものと思われる。引き続き、シラバスの到達目標を事前に確認し、時間外学習を行うことでより多くの学生が到達目標を意識し、達成できるように改善に努めたい。
	0.0 (0)	6.1 (2)	51.5 (17)	27.3 (9)	15.2 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	0.0 (0)	3.0 (1)	3.0 (1)	6.1 (2)	36.4 (12)	12.1 (4)	30.3 (10)	6.1 (2)	3.0 (1)	
	3.0 (1)	6.1 (2)	33.3 (11)	27.3 (9)	27.3 (9)	3.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	9.1 (3)	33.3 (11)	12.1 (4)	36.4 (12)	9.1 (3)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	12.1 (4)	42.4 (14)	27.3 (9)	18.2 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.0 (0)	0.0 (0)	6.1 (2)	9.1 (3)	15.2 (5)	30.3 (10)	12.1 (4)	24.2 (8)	3.0 (1)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	3.0 (1)	24.2 (8)	24.2 (8)	36.4 (12)	9.1 (3)	3.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	3.0 (1)	0.0 (0)	6.1 (2)	3.0 (1)	12.1 (4)	27.3 (9)	30.3 (10)	15.2 (5)	3.0 (1)	[授業[内容]] 問5、問6ともに前期と比較して肯定率が高まっていることが見て取れる。前期と後期では科目が大きく異なるので、単純な比較はできないものの、改善が見られたものと考えている。 ただし、前期に引き続き科目間でばらつきが見られるので、科目間のばらつきを少なくするとともに、よりA評価の割合を高めていく必要がある。
	3.0 (1)	15.2 (5)	42.4 (14)	24.2 (8)	15.2 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	0.0 (0)	3.0 (1)	9.1 (3)	3.0 (1)	15.2 (5)	21.2 (7)	33.3 (11)	12.1 (4)	3.0 (1)	
	3.0 (1)	12.1 (4)	36.4 (12)	36.4 (12)	6.1 (2)	6.1 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	6.1 (2)	0.0 (0)	6.1 (2)	0.0 (0)	9.1 (3)	6.1 (2)	48.5 (16)	18.2 (6)	6.1 (2)	[授業[教え方等]] 問7、問8、問9の全てにおいて前期と比較して肯定率が高まっている。前期と後期では科目が大きく異なるので、単純な比較はできないものの、改善が見られたものと考えている。 ただし、前期に引き続き科目間でばらつきが見られるので、ばらつきを少なくするとともに、よりA評価の割合を高めていく必要がある。
	6.1 (2)	21.2 (7)	48.5 (16)	15.2 (5)	6.1 (2)	3.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	6.1 (2)	0.0 (0)	6.1 (2)	0.0 (0)	6.1 (2)	9.1 (3)	39.4 (13)	27.3 (9)	6.1 (2)	
	6.1 (2)	33.3 (11)	36.4 (12)	12.1 (4)	6.1 (2)	6.1 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	6.1 (2)	0.0 (0)	6.1 (2)	0.0 (0)	12.1 (4)	9.1 (3)	42.4 (14)	18.2 (6)	6.1 (2)	[環境・設備等] 問10、問11ともに肯定率は90%を超えており、概ね肯定的な結果と考えている。ただし、問11の肯定率が若干低めである。前期にも記したが、会計ファイナンス学科は新設学科であり、いまだ十分な参考図書が図書館に揃っていない可能性も考えられるので、引き続き今後の課題としたい。
	9.1 (3)	21.2 (7)	42.4 (14)	18.2 (6)	9.1 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	3.0 (1)	0.0 (0)	9.1 (3)	30.3 (10)	36.4 (12)	18.2 (6)	3.0 (1)	
	3.0 (1)	30.3 (10)	57.6 (19)	9.1 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	3.0 (1)	9.1 (3)	36.4 (12)	30.3 (10)	21.2 (7)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	9.1 (3)	36.4 (12)	42.4 (14)	12.1 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

（ ）は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

会計ファイナンス学科は新設学科のため経年変化を分析することはできない。そのため、前期との比較を行ったが、前期とは科目が異なるため単純な比較はできない。しかし、前期と比較する限り、多くの質問で肯定的な回答率が高まっており、前期に比べて改善されている可能性が考えられる。

4.今後の方針

今回の結果は、前期と比較する限り、概ね肯定的な結果であったと考えている。今後はさらにA評価の割合を高めていく。
具体的には、4月の新入生オリエンテーション（教務ガイダンス）でシラバスの見方を教え、各科目のシラバスを確認することを指導していく。また、時間外学習時間を確保できるように、特に必修科目で課題を課したり、時間外の勉強会を積極的に開催したりしていく予定である。さらに、前期に引き続き科目間のばらつきを少なくしていくために、学科内でアンケート結果概要を共有していく。

1.概評

今回の回答集計では、Aの回答比率、A+Bの回答比率で全体集計結果を上回っており、概ね良好と考えられる。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%）、学科の状況と課題（前年度との比較等）。

（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ ≦100	考察
1	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	3.8 (5)	8.3 (11)	19.5 (26)	10.5 (14)	18.8 (25)	19.5 (26)	19.5 (26)	[学生] Aの回答を見ると、問1(シラバス確認)で全学平均の13.3%、問2(授業内の積極的取組)で12.9%、問3(授業外学習)で13.0%、問4(到達目標達成)で16.3%上回っており、学生がしっかりと学習をし、到達目標に達成していたと自己評価していることがわかる。本学科は本年度より必修英語の授業の内容を見直し、よりアカデミックな英語を学ぶようになっていることが授業外学習に関する自己評価に影響を与えたのではないかと考えられる。C+Dの否定的評価も全学平均を下回っていることから、真剣に取り組んでいないと自己評価する学生が少ないこともわかる。
	19.5 (26)	22.6 (30)	21.8 (29)	19.5 (26)	10.5 (14)	5.3 (7)	0.8 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	2.3 (3)	5.3 (7)	12.0 (16)	16.5 (22)	18.8 (25)	21.1 (28)	24.1 (32)	
	22.6 (30)	21.8 (29)	23.3 (31)	16.5 (22)	9.8 (13)	5.3 (7)	0.8 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.8 (1)	4.5 (6)	6.8 (9)	16.5 (22)	19.5 (26)	25.6 (34)	26.3 (35)	
	24.8 (33)	27.8 (37)	23.3 (31)	18.0 (24)	3.8 (5)	2.3 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.0 (0)	0.0 (0)	2.3 (3)	6.0 (8)	9.0 (12)	10.5 (14)	25.6 (34)	12.0 (16)	18.0 (24)	16.5 (22)	
	15.8 (21)	18.8 (25)	20.3 (27)	19.5 (26)	9.8 (13)	11.3 (15)	4.5 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.8 (1)	0.8 (1)	9.0 (12)	13.5 (18)	19.5 (26)	24.8 (33)	31.6 (42)	[授業[内容]] 問5(シラバス通りの授業)、問6(学生の内容理解)については、A評価が全体集計結果を10ポイント以上上回っており、授業運営が良好に行われていたことがわかる。C+Dの否定的評価も全学平均を下回っていることから、授業の運営と学生の理解は良好であると結論できる。
	29.3 (39)	24.8 (33)	26.3 (35)	11.3 (15)	6.8 (9)	0.8 (1)	0.8 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	0.8 (1)	0.0 (0)	0.8 (1)	4.5 (6)	9.8 (13)	17.3 (23)	15.8 (21)	21.8 (29)	29.3 (39)	
	27.8 (37)	23.3 (31)	23.3 (31)	14.3 (19)	7.5 (10)	3.0 (4)	0.8 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	0.8 (1)	0.0 (0)	3.8 (5)	6.0 (8)	12.0 (16)	9.0 (12)	13.5 (18)	18.8 (25)	36.1 (48)	[授業[教え方等]] 問7(教員の説明の明快さ)、問8(教員の話の聞き取りやすさ)、問9(授業進行の効果性)すべてでA評価は全学平均を10ポイント以上上回っており、A+B評価が全体集計結果を上回っているため、教員の説明がわかりやすく、効果的であると捉えられていることがわかる。多くの科目は英語を媒介として教えられるにもかかわらずこのように高い評価となっていることから、学生が英語を理解する力が段階的に上がっていると考えられる。
	35.3 (47)	20.3 (27)	20.3 (27)	11.3 (15)	9.8 (13)	2.3 (3)	0.8 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	0.8 (1)	0.0 (0)	1.5 (2)	2.3 (3)	9.0 (12)	15.0 (20)	11.3 (15)	21.1 (28)	39.1 (52)	
	38.3 (51)	26.3 (35)	15.0 (20)	12.8 (17)	6.8 (9)	0.8 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	0.0 (0)	0.8 (1)	2.3 (3)	7.5 (10)	9.8 (13)	11.3 (15)	14.3 (19)	20.3 (27)	33.8 (45)	
	31.6 (42)	27.8 (37)	14.3 (19)	13.5 (18)	8.3 (11)	3.8 (5)	0.8 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.8 (1)	7.5 (10)	17.3 (23)	19.5 (26)	23.3 (31)	31.6 (42)	[環境・設備等] 学習環境、図書館の設問ともにA、A+Bの肯定的評価は全学平均を上回っており、学生は学習環境と設備について満足していることが伺える。
	35.3 (47)	25.6 (34)	23.3 (31)	12.0 (16)	3.8 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.8 (1)	3.8 (5)	15.0 (20)	16.5 (22)	20.3 (27)	21.8 (29)	21.8 (29)	
	26.3 (35)	21.1 (28)	23.3 (31)	17.3 (23)	10.5 (14)	1.5 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

全般的に、今学期の学生アンケートの結果は良好であるが、特定科目において評価がそれほど高くなかった傾向が見受けられた。英語でアカデミックな内容の英語を教えるという教育を実践する過程で、厳しめに教えることにしたこともその要因と思われる。授業コーディネーターの指示のもと、現状を把握して授業の質を上げるためのミーティングを行うなど、学科全体で教育の質を上げていくことが必要である。

4.今後の方針

認定留学者の増加やテンプル大学とのダブルディグリープログラムが始まるなど、学科内のカリキュラムが学生のニーズを反映するために細分化されていく中、授業の質の管理と学生の学びの力を向上させていけるよう、学科全体で取り組んでいきたい。

また、「教え方等」で評価の悪い教員に対しては面談を行うのみならず、授業見学を行って抱えている問題点を共有して授業運営を改善していきたい。

1.概評

昨今「自由記述欄」を読んでいると、さまざまな意見があり、マークシートだけではなく学生の意見を聞けることは学科にとっても教員にとってもプラスだと思っているが、「授業改善」アンケートの主旨、授業をよりよくするための意見だということを忘れていたような記述や単に自分の不満をぶつけているような記述が見られ、残念に思うことがある。担当教員に言っても意味のない意見や、的外れの記述も見られ、学科でも指導が必要だと感じている。今後はその点を学生に周知し、十分指導していきたい。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ ≦100	考察
1	0.0 (0)	1.2 (1)	5.8 (5)	19.8 (17)	18.6 (16)	23.3 (20)	12.8 (11)	8.1 (7)	4.7 (4)	5.8 (5)	[学生] 学生も意識して勉強に取り組んでいるようであり、留学必須の当学科としては望ましい状況だと感じている。
	5.8 (5)	8.1 (7)	16.3 (14)	24.4 (21)	18.6 (16)	18.6 (16)	8.1 (7)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	0.0 (0)	2.3 (2)	8.1 (7)	14.0 (12)	25.6 (22)	14.0 (12)	17.4 (15)	12.8 (11)	5.8 (5)	
	3.5 (3)	11.6 (10)	25.6 (22)	15.1 (13)	25.6 (22)	17.4 (15)	1.2 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	1.2 (1)	3.5 (3)	11.6 (10)	20.9 (18)	30.2 (26)	14.0 (12)	15.1 (13)	3.5 (3)	
	4.7 (4)	14.0 (12)	20.9 (18)	32.6 (28)	18.6 (16)	9.3 (8)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.0 (0)	4.7 (4)	3.5 (3)	22.1 (19)	14.0 (12)	22.1 (19)	17.4 (15)	10.5 (9)	4.7 (4)	1.2 (1)	
	1.2 (1)	8.1 (7)	15.1 (13)	15.1 (13)	22.1 (19)	27.9 (24)	9.3 (8)	1.2 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	1.2 (1)	2.3 (2)	7.0 (6)	4.7 (4)	25.6 (22)	22.1 (19)	15.1 (13)	15.1 (13)	7.0 (6)	[授業[内容]] 教員に対する評価は学生によって異なると思うが、自負を持って真面目に取り組んでいる担当教員が多く喜ばしいことだと思っている。
	5.8 (5)	12.8 (11)	24.4 (21)	24.4 (21)	23.3 (20)	8.1 (7)	0.0 (0)	1.2 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	1.2 (1)	2.3 (2)	4.7 (4)	7.0 (6)	12.8 (11)	16.3 (14)	26.7 (23)	9.3 (8)	15.1 (13)	4.7 (4)	
	7.0 (6)	11.6 (10)	20.9 (18)	22.1 (19)	19.8 (17)	14.0 (12)	3.5 (3)	1.2 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	2.3 (2)	1.2 (1)	2.3 (2)	5.8 (5)	8.1 (7)	14.0 (12)	20.9 (18)	14.0 (12)	17.4 (15)	14.0 (12)	[授業[教え方等]] 授業のスピードや内容など学生によってとらえ方はさまざまで、評価も違って来るであろうが、全体的にはポジティブではないか。
	15.1 (13)	17.4 (15)	20.9 (18)	24.4 (21)	15.1 (13)	7.0 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	1.2 (1)	2.3 (2)	1.2 (1)	3.5 (3)	7.0 (6)	14.0 (12)	20.9 (18)	15.1 (13)	18.6 (16)	16.3 (14)	
	15.1 (13)	20.9 (18)	25.6 (22)	20.9 (18)	14.0 (12)	3.5 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	2.3 (2)	1.2 (1)	2.3 (2)	10.5 (9)	7.0 (6)	16.3 (14)	16.3 (14)	15.1 (13)	22.1 (19)	7.0 (6)	
	10.5 (9)	26.7 (23)	18.6 (16)	22.1 (19)	12.8 (11)	8.1 (7)	1.2 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	1.2 (1)	0.0 (0)	1.2 (1)	2.3 (2)	11.6 (10)	25.6 (22)	27.9 (24)	19.8 (17)	10.5 (9)	[環境・設備等] 大きさや設備など教室が必ずしも授業に対応できているとは限らないのは残念であるが、現状の中で最適な状況を整えていきたい。
	12.8 (11)	22.1 (19)	39.5 (34)	12.8 (11)	9.3 (8)	2.3 (2)	0.0 (0)	1.2 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.0 (0)	1.2 (1)	2.3 (2)	22.1 (19)	22.1 (19)	24.4 (21)	15.1 (13)	8.1 (7)	4.7 (4)	
	5.8 (5)	9.3 (8)	23.3 (20)	31.4 (27)	22.1 (19)	5.8 (5)	2.3 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

留学を必修にしており、留学地によっては基準を設けているところもあるので、学生によってはモチベーションに開きがあり、教員に求める（期待する）ものにも開きがある。

4.今後の方針

教員には学生の力が延びるよう目標を設定してもらい、学生が自分の力の向上を実感し、自信につながるよう長期的な指導をお願いしていきたい。学生には授業を向上させるためにアンケートの重要性と回答の責任を指導していきたい。